山嶽寮

甲南山岳会通信　第７８号　　２０２３年１０月

甲南山岳部・甲南山岳会

山 嶽 察　甲南山岳会通信７８号　２０２３年１０月

紀行・山行

ザンスカール回想行　(46年ぶりのザンスカール)　南里章二 …… 2

大峰山上多古川本谷遡行　負傷後自力下山顛末記　川口　豊 …… 12

涸沢岳西尾根から奥穂高岳往復　2023.3.28～30　山本恵昭 …… 16

南アルプス、上河内岳　久しぶりに娘との登山　山本恵昭 …… 19

四国遍路　2023年7月24日～27日　川野幸彦 …… 22

京都一周トレイル　7月3日／8月21日　川野幸彦 …… 25

続・四国遍路　2023年8月29日～30日　川野幸彦 …… 26

随　想

山岳部諸先輩・同輩から教わった俗話　その2　牧野　宏 …… 28

中井久夫さんの「穂高・涸沢行」の周辺　越田和男 …… 29

ＯＢ会の思い出　飯田　進 …… 31

高遠山荘でのシェーン　柏　敏明 …… 33

寄　稿

山登りの写真を見て、絵を描いています　森本美子様 …… 34

追　悼

阿部公義さんのこと　米山悦朗 …… 36

住友健時さんを偲んで　山本恵昭 …… 38

会員短信

総会・慰霊祭 出欠はがきから　(構成) 井上知三 …… 39

報　告

秋の集会　井上知三 …… 46

総　会　井上知三 …… 47

慰 霊 祭　井上知三 …… 49

ホームページから

掲示板書き込みダイジェスト / 訃報関連 / 中井久夫さん関係の書き込み

(構成) 大森雅宏 …… 50

編集後記　塩崎将美 …… 82

ー 紀行・山行ー

ザンスカール回想行 （46 年ぶりのザンスカール）

南里章二　（昭 45 理）

デリー、インディラ・ガンジー空港を離陸した機はインド最北部ラダック地方の中心都市レー〈3505m〉に向かう。一時間足らずで眼下にヒマラヤ山脈の光景が拡がる。山の数が多すぎてとても、写真で何度も見た山々を特定することなど出来ない。レーに近づくに従って茶褐色の岩肌がむき出しとなり、高度が下がるにしたがって空港周辺に展開する広々とした軍事基地が目に付き始める。

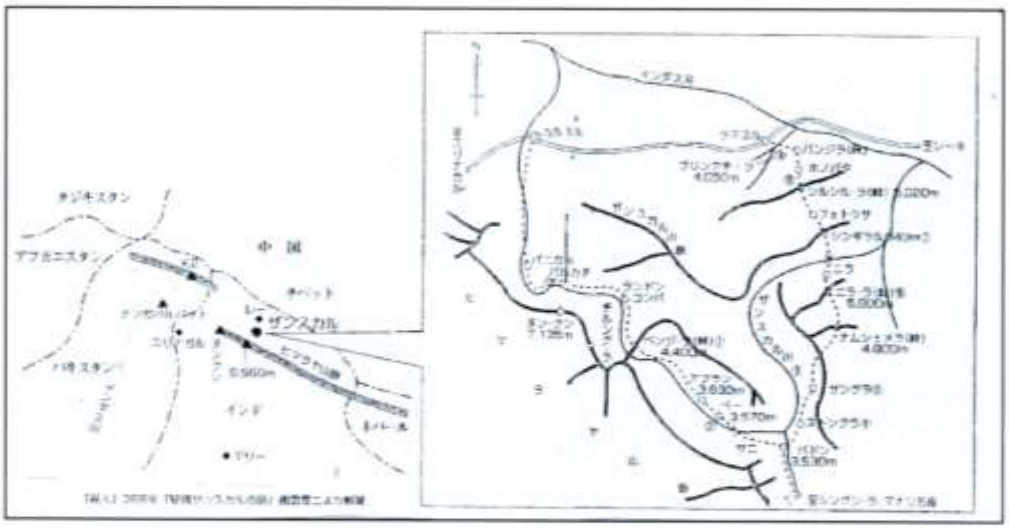
デリー・レー間 機上から見たヒマラヤ山脈

シャンティ・ストゥパから見たレーの街

このすぐ西側にインド・パキスタン管理ライン〈1972 年設定〉が、すぐ北側には未だ未確定のインド・中国の国境ラインが存在することは良く知られている。10 世紀以降約 800 年間続いていたチベットのラダック王国が 19 世紀にインド北部のジャムー・カシミール藩王国に征服され、イギリスによる植民地統治期間をはさんでインドに組み込まれる。2019 年には連邦直轄領となり、現在国境維持のためインド政府による軍事的補強が強化されつつある。しかしこの軍事的緊張もどこ吹く風と機内は、インド各地、欧米からの観光客で溢れかえっている。

ザンスカールへ向かう PWD のトラック〈1977〉

目次



ザンスカールを含めたインド最北部のラダック地方はインドのなかでもチベット文化を色濃く残す特異な世界である。中国による支配下に組み込まれたチベットでは1951年以来、中国による武力侵略を受け、特に文化大革命当時には大規模にチベット仏教を中心とする文化が破壊された。この中国の姿勢は現在チベットを統治下におく習近平・共産党政権によりその傾向はますます強まっている。これらの被害を免れ、チベット文化を温存することができた貴重な世界がこのザンスカールに維持されているのだ。

今から46年前の1977年、第一次キシュトワル・ヒマラヤ登山隊としてこのザンスカールの入り口、ペンシ峠の南西部氷河の奥に聳える未踏の6500m峰を目指した。残念ながらこの時点では登頂はかなわず、2年後にこの第一次隊に参加した若手メンバーが中心となって無事登頂に成功したことは周知のとおりである。第一次隊の登山活動終了後、私と隊員として荷上げ、ルート工作に先頭を切って活躍してくれた松本君と当初の計画に従ってザンスカール世界の民族学的調査に出発した。実はこの計画には当初朝日新聞記者であり、『カナダエスキモー』などの取材で一世を風靡した本多勝一氏と共にカメラマンとして同行され自らも著名な登山家である藤木高嶺氏が参加を希望され、彼の指導の下に調査活動が行われる予定であった。

ところが出発直前に新聞社の社内事情により彼の参加は中止となってしまった。いわばはしごを外された形でザンスカールに取り残された私たちは僅かながらの文献で学んだ民族学的調査の手法を手探りで進めざるをえなかった。しかしこの時の体験が、私にとってその翌年から本格的に始めたアフリカ、サハラ砂漠での数次にわたる調査活動に役立つことになる。

第一次登山隊の活動拠点であったカルギルに深夜到着した私たちはその翌々日、入山時と同じく州政府による道路建設用(PWD)のトラックに再度便乗して、その頃トラックが入れる最南端のアブラン村をめざした。そこから徒歩で2日間の距離にあるザンスカールの中心地パドンにそれぞれ10日間ずつ滞在して調査データを収集した後、パドンから北のラマユルまで全長約200kmにわたる踏査を開始した。このルートは当時ザンスカールの人々も交易のため、生涯に数えるほどしか行き来せず、チベット仏教徒の修行路としても使われていた難路である。シンギ峠(5050m)、ナムツェ峠(4429m)はじめ5000m前後の峠などが連なる険しい山道が続くと思うと、谷へ下り増水したザンスカール川の支流を渡渉せねばならなかったり、何度も危なっかしい目に遭いながら10日間かけて踏査に成功した。

シンギ峠(5050m) 1977

ナムツェ峠(4429m) 1977

渡渉地点 1977

帰国後、この件を中央アジアの探検史に詳しい藤木氏に報告すると、「インド最北部の秘境ザンスカール　甲南大山岳会、日本人初の大横断」という見出しで朝日新聞に掲載してくださった。

その数年後から、州政府による道路建設がさらに進展することにより、ザンスカールへのアクセスはどんどん簡易化され、多くの旅行者が入域できるようになった。私たちが歩いたルートも食糧、テントが用意されたトレッキングルートとしての整備が進み、世界各国の旅行社が競ってコースを設定するようになった。かつてはザンスカールの入りロカルギルまでは、デリーからスリナガルまで空路移動し、そこからバス、もしくはトラックでヒマラヤ山脈のゾージ峠(4529m)を越え、3 日間かかった。さらにレーまでは 2 日かかる数日がかりの旅であった。しかし現在は冒頭に記したようにデリーからレーまで空路で僅か 1 時間。

この 46 年間、私にとってザンスカールとの接点は 20 年前と昨年出版した 2 冊の拙著のなかで、独自の章を設定して書き記したことだけにすぎず、記憶からは次第に遠のく過去のものになりつつあった。3 年間のコロナ禍が過ぎ去った今年の夏、久し振りに海外に出かけてみようと考えてみたもののザンスカールが視野に入ってくることはなかった。

7月、以前中東、南米、東南アジア、オセアニアなどの航空機のチケット購入でお世話になり、20 数年前には何度か講演をさせていただいた S 旅行社のホームページをたまたま開くと「ザンスカール・ツアー締め切り間近」といいう広告が目に飛び込んできた。なんと2年前にパドンからラマユルまでの自動車道路が完成し，全行程車での移動が可能になったという。これまでの海外の旅はきちんと数えたことはないが百数十回、すべて単身の貧乏旅行でツアーなどに参加したことはなかったが、年齢を考えるとザンスカールを再度体験するのはこれが最後のチャンスになるだろうとのことで覚悟を決めて、募集枠の最後の一人に応募した。

5台の車に分乗した13人の旅行者を乗せた車はレー空港を出発し、ラマユルを目指して、整備された道路を走り続ける。以前は走り続けるバスの中から、横目で見ることしかできなかったインダス川とザンスカール川の合流点で車列は停車する。ゆっくりと観賞する時間を与えてくれた。

インダス川とザンスカール川の合流点(2023)

ラマユル・ゴンパと内部の壁画(六道輪廻図)2023

踏査の最後、目にしたラマユル・ゴンパ(1977)

昼過ぎにレーとラマユルの中間点アルチに到着。ここにあるアルチ・ゴンパ(僧院)は10世紀末にザンスカールにチベット仏教を伝えた高僧リンチェンサンポによって建てられたという。現在は僧院としての機能は果たしていないが、内部に残された色彩豊かな壁画、仏像には目を奪われる。翌日はラマユル・ゴンパに立ち寄る。ここも11世紀にリンチェンサンポによって創建されたものという。46年前パドンから 10 日間かけてラマユルに到着して、自動車道路に辿りつくとすぐにレーに向かうトラックがやってきたので慌てて便乗させてもらったため、とてもゴンパの内部など見学する余裕はなかった。というよりも当時の調査行ではザンスカールの人々の衣食住にわたる生活調査で手一杯であり、チベット仏教の美術世界には僅かに触れるだけでとても立ち入る余裕はなかった。しかし今回のゆっくりと時間をかけた見学には十分満足させてもらえた。ラマユルから西に向かい、フォトワ峠(4029m)、ナミカ峠(3720m)を通過する。ここもレーからの帰り道に通ったはずなのに全く記憶がない。懐かしいカルギルに着く頃、身体が熱っぽくなってしまっていた。涼しいと思っていたザンスカールの稜線地帯で日本の夏と同じような暑さに苦しめられるとは。助手席に座ったまま直射日光を浴びつづけていたのが悪かったのかも知れない。コロナ禍では3年間毎日体温を測り、36度5分を超えたことは一度もなかったのに、熱を測ると

37 度 8 分まで上昇していた。熱中症の初期症状かも知れない。楽しみにしていた夕食を抜いてゆっくり休む。夜明け前アザーンの響きに目が覚める。ここはムスリム(イスラーム教徒)の世界であった。翌日午前5時半に出発。熱は37度を越えたままであった。パドンまでは車に乗っていれば連れて行ってもらえるので気は楽である。一人旅にこだわらずツアーに参加したメリットをひしひしと感じる。

中央がクン、右の雪を纏った山がヌン

ベースキャンプを設営した氷河の末端(1977)

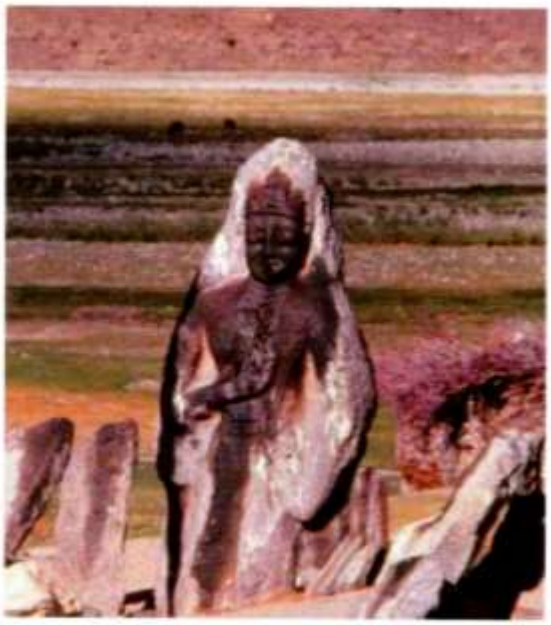
現在(2023)

昼前にはヌン峰(7135m)、クン峰(7077m)をのぞむパルカチック村を通過。登山隊としてここに宿泊した当時、登山という身勝手な行為への疚しさから、少しでも現地の人々に恩返しをと思い、随行ドクターの菊池氏に現地医療をお願いしたことがあった。彼は機嫌よく引き受けてくれたのだが、現地の村人が次々に押し寄せ薬品が足りなくなってしまう直前に中止せざるを得なくなってしまった。薬をもらえなかった現地の人の残念そうな顔がいまだに記憶に焼き付いて離れない。

ペンシ峠(4401m)を超える直前、西に向かって伸びる氷河の谷の傍を通過。昔この末端にベースキャンプを設けたところだ。しかし氷河は殆ど跡形もなく消え去っている。地球温暖化の影響だろうか。調査で 10 日間近く滞在したアプラン村を通過。かつてタシノルブという方の民家に宿泊させてもらったのだが、似たような造りの家々が立ち並び確かめるすべもない。アプランからパドンに向かう途中にあるサニ僧院を通過する。昔ここを歩いて通過したとき、路端にあった石仏をカメラに納めようとすると、馬を引きながら荷運びに協力してくれた小学校教師ツァリンが「写真を撮るのはかまわないが聖なるものなので写らないだろう」と言っていた石仏にも再度出会う。夕刻、ザンスカールの中心地パドンに到着。街のメインストリートには商店が立ち並び、すっかり様変わりしていた。

アプラン村でのツァリンとザンスカールの女性
(1977)

目次



サニの石仏(1977)

現在白布をまとった石仏(2023)

パドン遠景(1977)

現在のパドン(2023)

翌朝朝食前にこのツアーでは毎朝行うパルスオキシメーターの測定を受けると血中酸素濃度が81(正常値は 99～97、90 以下は危険値とされる)にまで低下していた。熱も下がり頭痛もなく食欲もあったが大事を取って病院での診察を受けることにする。ホテルの近く車で数分の所にある病院に向かう。日本の街の開業医の医院程度の大きさであるが、昔は薬局しかなく、しかも薬棚には殆ど薬品がなかったことを考えると大きな進歩である。何の手続きも踏むことなく直接医務室へ案内されすぐに診察を受ける。おそらくインド政府から派遣されたと思われる若い医師が手際よく診察を済ませてくれた。一時間の酸素吸入で値は 91 にまで上がった。診療費は無料。医師がコインコレクターだというので日本のコインを差し上げた。かつて登山活動中の初期に隊員の殆どが頭痛や吐き気を催していた。全員すぐに回復したが私には全く症状は出なかった。後にチベットのラサ(3800m)やボリビアのラパス(4000m)などの空港に到着した時も何も感じなかった。高山病には自信があったのに一気に崩れてしまった。年齢を考えると当然のことであろう。

パドンの病院〈2023〉

カルーシャ・ゴンパ遠景〈2023〉

ゴンパ内の僧侶〈2023〉

その日の午後、パドンから数キロ離れたカルーシャ・ゴンパ(僧院)を訪れる。昔からザンスカール最大のゴンパと呼ばれ、その名は良く知られていたが、訪れてみると出会った僧は二人だけ、大人数のラマ僧が集団で勤行に励んでいたり、併設されているはずの学校では多数の少年のラマ僧が教育を受けている光景を想像していただけにがっかりしてしまった。ただ 2、3 日前に訪れたアルチやラマユルのゴンパと同じく色彩鮮やかな壁画や仏像はさすがに素晴らしいものであった。

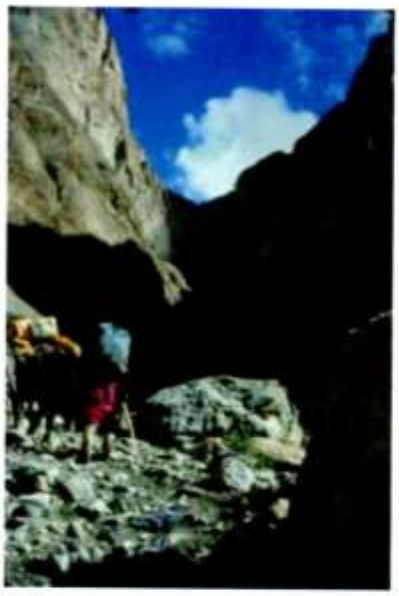
ザンスカールに入って 6 日目、2 年前に完成したパドン－ラマユル間の道路を走破する日がやってきた。午前 8 時出発。車列はザンスカール川の右岸に沿って平坦な道を走り続ける。左手の小高い丘にストンデ村が見えてくる。当時小学校の先生をしていたインド人教師ロケーシュの世話になりながら、ここで馬と馬方を雇うため 3 日間滞在したところだ。あの親切なロケーシュはどうしているのだろうか。すでに任期を終えてインドのどこかで余生を送っていることだろう。

道路右側に見えるストンデ〈2023〉

ロケーシュと生徒〈1977〉

目次

大麦粉をこねるヌワン〈1977〉



ヌワンとナムツェ峠への道〈1977〉

彼が選抜してくれたヌワンという年の頃 40 歳位の馬方はラマユルまで数回歩いたベテランであった。彼の的確なルート選定に助けられて、約 200 キロの踏査が可能になったのであった。道はここから対岸のリンシェ村まで続いているが当時は馬が渡れない吊り橋しかなかったので、ナムツェ峠（4429m）等を超えて険しい山沿いの道を歩かねばならなかった。

道路左側を流れるザンスカール川〈2023〉

現在も工事中の道路〈2023〉

シンギ峠〈2023〉

車列はザンスカール川の右岸をくりぬいたように開削した道を走り続ける。眼下にはザンスカール川の濁流が水しぶきをあげて流れ続ける。道路工事はまだ至る所で進行中である。建設労働者

目次

は南インド風の顔立ちの人たちが多い。連邦政府によって人材募集が行われたのであろう. ニラ村で橋を渡り左岸へ。かつてここまではニラ峠〈4800m？〉を越えて一気に 1500m ほど下らねばならなかったところだ。車列はシンギ峠への坂をジグザグに上り始める。傾斜は緩いがその距離の長さに難儀したところだ。昼過ぎにシンギ峠(5050m)に到着。このルートの最高標高地点である。生涯でここに再び立つことなど今まで想像もしたことがなかった。あの時は雨の中を寒さに耐えながら登り切ったものだった。今回は峠を吹き抜ける風が心地よい。ここからシルシル峠(4850m)までは、昼食をはさんで約 2 時間、かつて歩きでまる2日間かかったところへ2時間足らずで到着。驚きを通り越して「何だ、こんなものか」と無感覚に近い気持ちにもなってくる。道はザンスカール川の支流の渓谷沿いに創られた道を北に向かい、ラマユルには午後 6 時到着。かつて 10 日間かけて歩いた道を僅か8時間で走破。昔立った場所に再度立てたという喜びと何かしら拍子抜けのような感情が同居する不思議な思いが突き上げてきた。

シンギ峠(2023)

シルシル峠(1977)

シルシル峠(2023)

翌日到着したレーの町を夕食後、一人で探索してみた。ザンスカール産のヤギの毛皮でつくったショール(ロクパ)などを売る土産物屋が延々と続く何本もの明るい通りには、昔路上でザンスカールからやってきた農民たちが野菜や毛織物、チャン(コムギ、オオムギなどを発酵させた地酒)を売る光景は全くなくなっていた。あの長い年数と膨大な労働力と費用をかけて開削された道は、どう考えても非常時に最北の軍事基地レーへの物資運搬用に建設されたものであり、ザンスカールの人々に役立つことは殆どないような気がした。旅行中は高山病に悪いからと厳しく禁ぜられていたビールを 1 週間ぶりに口にすると何ともいえない旨さとホロ苦さが込み上げてきた。

目次

「今から 46 年前の 1977 年、第一次キシュトワル・ヒマラヤ登山隊としてこのザンスカールの入り口、ペンシ峠の南西部氷河の奥に聳える未踏の 6500m 峰を目指した」

写真は KKHE II 1979（編集）

目次

大峰山上多古川本谷遡行　負傷後自力下山顛末記

川口　豊　（昭55経）

奈良県の大峰山系、川上村にある上多古川本谷遡行を計画、入山しました。途中、予測し難い岩の剥離落下に伴う墜落で右脚脛骨を骨折、負傷した。

公的機関のお世話にはならず、何とかパーティーで自力下山できたのでその顛末を報告します。

まずは今回の山行に同行し、サポート頂いた山の仲間に感謝します。

沢からの下降の間、懸垂下降やフィックスのロープセット、ビレーなどに努め、安全を確保頂いたN氏とT氏に感謝します。F氏に至っては私を背負っての下降など常時離れず付き添い頂きました。まさに命の恩人達です。

・7月25日火曜日

29日予定の入渓前の偵察を単独で行いました。内容は一部FBにも掲載。

（この後ろに囲み記事で紹介しています　編集）

この日は最終パーキング地点とそこまでの林道の状態、沢への入渓点や巻道、杣道の確認が目的であった。入渓後、双竜の滝から引き返し、入渓点のそばの流れの横でゆっくりそうめんを茹でて頂いた。もしこの偵察行で先の洞門の滝まで進み、事故を起こした剥離点で同じ事が起きていたらソロの私では生還できていなかった。電話は8キロほど下った上多古の集落近くでないと入らぬ圏外だし、一般的な登山道もないバリエーションルートにあたるから、他の登山者から発見されるのは稀なことになる。実際、この日も事故当日も他の沢登りなどの登山者に出会うことはなかった。

フェイスブックより引用

7月26日 8:55

この週末に入渓予定の大峰の沢を偵察してきました。大岩ゴロゴロボルダリングの連続にとほほです。登って降りての繰り返しでボンコツ爺には厳しいっす。それにしてもやはり涼しくて快適です。歩き出しで23℃でしたよ。お昼はそうめんを頂きました。食べちゃったんでその写真がありません^^;ビリー缶写真は簡易ストーブ&ケイネンで沸かしてます。そう見えますが、直焚火ではありません。

（写真は割愛しました　編集）

・7月28日金曜日

酷暑の熱帯夜から逃れて前泊する為、16時頃に最終パーキングに再び単独で到着。簡易テントと焚き火でゆっくり1人宴を張った。仲間のT氏は遠方から来る予定なのだが、夜中にならないと現れないだろうと思えた。他の2名の仲間は仕事の都合もあり明朝6時頃に待ち合わせである。この夜は満点の星の下で焚き火をし、たいへん爽快。冷涼なまま眠りにつくことができた。

・7月29日土曜日

朝7時頃、メンバーを迎えて準備を整え4名で山行を開始した。最終パーキングから1km程度林道をゆっくり歩き入渓。危うそうな橋を渡り、トレースの分岐点から右にそれ沢に入る。

目次

沢は大岩のゴロついた中をいきやすい所から遡上していく。多古の滝は右側から巻く。

双竜の滝は滝下で誰がリードクライムするか等いろいろ協議をするも、仮に滝下に落下しても充分な水量が滝壺になく、無難に巻いていこうということになった。

巻道としては右側の浅いルンゼの苔むした階段状の岩を登った。

目次

この巻道を登ってしばしトラバースしながら洞門の滝の落口のある沢床に向かって下降していくのだが、ルンゼ状のがれ場のようなところをクライミングダウンで降りていった。

この時は懸垂の必要性は感じなかったのだが、このルンゼに嵌まり込んだ 50～60 センチ幅の大きさの岩にいったん乗り、さらに降るためこの岩の上端のガバ気味のホールドに手を掛け、下部の別のスタンスに乗り移ろうとした途端、この岩がメリメリと剥がれた。あ、落ちる―と思ったがどうにもならず、岩と一緒に墜落した。この岩は沢床から 1m 位の高さでルンゼ内に引っ掛かり止まったが、私は下の沢床まで背中から墜落した。落下距離は後で見たら 6m 程であったようだ。気を失うこともなかったので直ぐに身体を探った。

落ちた場所が沢床で平坦だったのと、ヘルメットを着用し、着替えなどを入れた柔らかいザックを背負っていたのでそれがクッションになり頭部、腰や背中は全く無事であった。後に分かったが左手掌、右肘を青タンが出来る程度に打撲をしていた。問題は右足で脛部がガクガクしている。どうも骨折してしまったようだ。持ち上げてみると中で骨がグラついてボコボコしてるのが分かった。

負傷直後で痛みはなかったが、とにかく副木を外側に 2 本、内側に 1 本あて、F 氏にテーピングで固定してもらった。この処理は後に病院で救急ドクターにたいへんお褒めいただいた。消防署勤務の F 氏に感謝する。

クライミングダウン時に荷重を掛け、浮石チェックをしていたのに岩石の剥離は予測できなかったのが悔やまれる。

この後、皆でどうするかを話し合った。この時点で時刻は朝の 10 時頃であった。この沢床から見た空は樹木が覆ってほぼ視界がない。ヘリからの吊り上げはこの地点からは難しそうに思える。ヘリ懸架が可能な地点は林道終点の入渓点まで無かろう。しかし林道終点には車がなんとか入れるから、そこまで私が動けるならヘリは不要になる。

この搬出を警察などの救助隊に依頼すれば大掛かりな人数が必要になり、時間も大幅に掛かると思われる。なので 3 名の仲間にサポートを頼み、自力下山する事を考えた。幸いまだ行程の序盤で距離も 2 キロ強位である。時間的にもこの選択が妥当で良いと思えた。

メンバーの3名はいづれも山に強く、ロープワークもマスターしているのでサポート力も充分ある。下降の前半は巻道とそこから沢中の流水まわりの下降、後半は杣道に合流してからの強傾斜のトラバースラインとなる。右足に荷重を掛けて立ったり、身体の保持が出来ないため、膝を地につけて四つ這いで這うしか方法は無い。

方針が決まり、早速ロープの設置に仲間が動いてくれた。

私はパッド入り膝当てのついたレッグゲイターを T 氏からお借りし、先ほどの落下地点を避けながらフィックスロープにセルフをとって這い登り始めた。

双竜の滝の巻道の所は懸垂で降りる。足で踏ん張れないのでお尻を壁面に押し付けながら ATC を押さえ込みつつゆっくりと下降した。ロープ任せで動けるので身体は楽であった。

沢床からは水に入り、岩を這い越えて下流に移動した。往路でボルダリングして登ったポイントなどは懸垂下降で降りる。F 氏に背負ってもらったり、水に私を浮かせて運んでもらったり、常に側で介助して頂いた。こうした作業をなん度も繰り返した。今思えばこの前半戦、足は痛みはしたが荷重を掛けずに移動できるため、そう厳しくはなかった。

目次

感覚がなかったし、必死であったからだとも思う。しかし後半戦の杣道のトラバースからが地獄の苦しみだった。

とにかく痛いのである。痛みは体力も使い、息もすぐ切れてしまう。

永く登山をしているが、こんなにきつい目にあったのは記憶にない。数十センチ這って喘ぎ、また動いては休みをとりながら痛みに耐える。時間だけはどんどん進み、瞬く間にはや夕刻。陽落ち前に入渓点まで帰り着けるか、焦りも出てくる。
しかし、永遠に続くかと思われた苦痛もようやく終了点が見えてきてた。担いでいけそうな下部の平坦な場面ではＦ氏に負われながら、漸く入渓点の橋にたどり着いた。橋を這って渡り、安堵の息と涙が流れた。時刻は 19 時をまわっていた。

Ｔ氏が先にここまでの配車を行なってくれていた。横たわれるスペースを作った車内に乗せていただきすぐに移動、救急病院へ入院する事ができた。

目次

涸沢岳西尾根から奥穂高岳往復　2023.3.28～30

山本恵昭　（昭56理）

久しぶりの雪の穂高。今の自分の体力で行けるのかどうかを自問しながら、恐る恐る計画を実行してみた。

学生時代、ほとんどの山行きが剣岳方面だったので、初めて雪の穂高に登ったのは、社会人になって数年経った年末だった。体力も技術も充実していたその頃、何の問題もなく奥穂高岳から西穂高岳へ駆け抜けた。今は亡き薮内さんのリクエストだった。

薮内さんが何故そこに行きたかったのか。それは、職場の同僚だった宝塚山の会のある女性メンバーが涸沢岳西尾根経由で奥穂高岳に来ていたから。大学山岳部では、多くの者が卒業したら山を引退し、思い出話(それも悪くはないが)に花を咲かせ、他人の登山の評論家になっていた。薮内さんにとって、社会人になっても山への情熱を持ち続け、日々トレーニングを重ねている宝塚山の会の人が、眩しく輝いて見えたのだろう。涸沢岳西尾根を登る途中、下山して来るその人と出会った。「ちょっと西穂まで」と自慢気に話しかける薮内さんの笑顔が輝いていた。その眼のキラキラは、少し恋愛感情も有ったのではないだろうか。

その後、薮内さんは宝塚山の会に入り、正月の鹿島槍ヶ岳で遭難した。メンバー4 人の遺体が黒部側の谷底で見つかったのは、8月だった。

それから 40 年近くの時間が経った。何度意味のない「たら、れば」を繰り返しただろう。そして、今も。もし、薮内さんが生きていたら、今回の山行も一緒に行っていただろうか。それとも、とっくに山登りを卒業し、「いつまでそんなことやってんや、アホちゃうか」と笑われたかもしれないな。

3 月 28 日、新穂高 7 時発。白出沢出合を過ぎて、西尾根に取り付く。雪は少なく、先日の雨が凍ってガリガリ。少し傾斜が緩くなった 2360m 地点に 12 時半に到着し、整地してテントを設営する。

29 日、5 時半発。蒲田富士手前の雪壁もその上のナイフリッジも、雪が安定していて難なく通過。涸沢岳までの長い登りでは、雪に隠れた岩にアイゼンが引っ掛かり歩きにくい。朝日に輝く笠ヶ岳を眺めたり雪庇の隙間から滝谷を覗き込んだりして、息を整え気持ちを落ち着かせる。

雪に埋まった穂高岳山荘周辺は広々として、ホッとする。鉄梯子の上の雪壁がちょっと怖い。バイルも使ってダブルアックスで慎重に登っていく。

奥穂高岳山頂に 10 時 50 分着。快晴。360 度、どっちを向いても絶景。風も穏やかで、しばし景色を楽しむ。さっさとテントまで下りたいところだが、涸沢岳に登り返す頃には、異常な暖かさでアイゼンが直ぐに雪団子になる。スリップしたら、命とり。数歩ごとに、ピッケルで叩き落とさなければならない。蒲田富士のナイフリッジも雪が緩み、崩れそうで怖い。慎重に慎重を重ね、テントに 15 時半帰還。結構疲れた。

30 日、朝ゆっくり準備して、6 時半発。ガリガリ急斜面を下って、白出沢出合で日向ぼっこ。フキノトウを少々いただき、周囲はもう春の気配。11 時過ぎ、新穂高の県警に下山届を提出し、無事終了。

お気に入りの荒神の湯で、汗を流す。清掃協力金が、200 円から 300 円に値上がっていたけど、この解放感は捨てがたし。

目次

山から下りて、帰宅する前にもうひと遊びしようと、富山へ車を走らせる。どこもサクラが満開で、白い山々をバックに、美しい。川の土手で山菜採りをしているお婆さんに、アズキナを教えてもらう。富山の人は食べないけど、飛騨の人には人気の山菜とのこと。ちょっと青臭いらしい。

富山に来た本来の狙いは、ホタルイカ。夜、富山湾の奥深くから産卵のために浅場に来たホタルイカが、海岸に身投げするとのこと。いつどこに来るかはわからないので、とりあえず四方漁港へ。スーパーでホタルイカと紅ズワイガニなどの惣菜を買って、山での粗食に耐えた胃を満たし、明るいうちに、周辺の海岸を下見。散歩している地元の方に様子を伺い、ポイントを確認。

夕方に仮眠して目覚めると、21 時。すでに、何台かの車が増えている。網を持って、波止をうろうろ、砂浜をうろうろ。ヘッドランプで海面を照らし、ひたすら探すが、全く気配なし。波止の先端にテントを張り強力ライトで海面を照らしている人がいた。お話を伺うと、毎年来ているとのこと。突然、海面がホタルイカで真っ赤になり、何kgも掬ったことが有るかと思えば、一晩中粘っても1匹も獲れないこともあるそう。何人もの人が、灯りを手に現れては帰っていく。夜の寒さに耐えられなくなっては、車に戻って仮眠し、目覚めては、また出陣を繰り返す。結局、3 時まで粘って、ゼロ匹。諦めて、4 時までの高速道路深夜割引に間に合うように車を走らせ、帰って来た。

ホタルイカ食べ放題作戦は、天が味方せず、失敗。残念！出直すには遠すぎる。でも、面白かった。次は来年か。

蒲田富士のナイフリッジ

濁沢岳

目次

滝谷と北穂高岳

奥穂高岳山頂

奥穂高岳山荘からの登り

ジャンダルムから西穂高岳方面

目次

南アルプス、上河内岳　久しぶりに娘との登山

山本恵昭　（昭56経）

下の娘が、東京勤務になると同時に新型コロナが流行し、しばらく山行きどころか、会うことさえできなかった。そんな娘から、久しぶりに「どっかいかない」とお誘いが来た。いくつかのモデルプランを提案し、娘が選んだのが南アルプス上河内岳だった。

子供が小さいころは仕事が忙しく、土日はほとんど潰れ、まとまった休みが取れるのは、盆と正月くらいだった。正月は実家へ。そして、お盆休みは家族で山登りというのが、我が家の定番だった。5人分のテント泊装備を妻と分担して担ぎ上げ、いろいろな山に登ってきた。

3人の子供たちには同じような経験を積ませたつもりだったが、なぜか下の娘が一番アウトドアの世界が好きになっていった。二人で一緒に、キナバルに登ったり四万十川や熊野川をカヤックで下ったり。大学では森林科学、大学院では環境デザインを専攻し、そして、社会人の現在、それらを生かした仕事についている。娘が長野勤務の時には、そこをベースに針の木岳や志賀高原の山々に、群馬勤務の時には、浅間山外輪山や草津や万座の山々に、そして温泉三昧を楽しませてもらった。

よく甲南山岳会の活動にもついてきていたので、皆様にもいろいろお世話になっていた。甲南バットレスで岩登りを体験させてもらったこともある。鈴鹿の沢登りでは、ライフジャケットを着てプカプカと滝壺に浮かびご機嫌だった。栂池の雪見会にも何度か参加させていただき、塩崎さんのお嬢さんにかわいがっていただいたり、吹雪の天狗原まで登って滑ったりしていた。いろいろな思い出が一杯詰まっていて、溢れ出てきそうだ。

7月16日、東京から来る娘を8時に静岡駅でピックアップし、畑薙ダムへ車を走らせる。すでに、臨時駐車場もかなり混んでいるが、ダメ元で沼平ゲートまで行ってみる。ラッキーなことに、ちょうど下山してきた人がいて、入れ替わりで車を停めることができた。

11時半に出発。いくつかの吊り橋を渡り、樹林帯の急登を終え、横窪沢小屋に15時20分に到着。本当は、茶臼小屋のテント場まで行きたかったが、このご時世、予約が全く取れなかった。本日、横窪沢避難小屋の利用者は4名。テントが3張。明るい平らな草地にテントを張る。水場もトイレもあり、快適。そして、無料。

計画当初、娘と二人なら共同装備が半分で済むと見込んでいたが、当てが外れ、娘は最近購入したという自分用テントを持参。今はやりの各自それぞれ個室テントとなる。私のいびきを警戒したのかも。主食は私が担当。手抜き軽量化で、カレーメシにイリコと天かすのトッピング。副食は娘が担当。チーズやドライトマト、婿さん差し入れのクッキーなどなど。そして、ワイン。なかなか気が利くやないかい！

夕食後、おやつをつまみながら、娘と小学生ぐらいからの山の想い出話、先日娘が訪れたネパールのこと、現在の仕事や家庭のことなど、久しぶりに会うと話題は尽きない。そして、いつの間にか眠りについていた。

夜半に起きると、満天の星空。次々と煌めく流れ星にしばし見惚れる。娘を起こそうかとも思ったが、ぐっすりと寝ているようなのでそっとしておく。朝起きてそのことを伝えると、娘は娘で、違うタイミングで起きて、同じことをしていたとのこと。

17日、今日の行程は長い。せっかく3時に起き

目次

たのに、グズグズと朝食を食べたり出発準備をしたりで、4時45分発。汗だくでひたすら登り、茶臼小屋に6時40分。やっと樹林帯を越えて、視界が開ける。富士山が良く見える。

稜線に出て、ハイペースで進む。御花畑と呼ばれる辺りは、草原の向こうに上河内岳が鎮座し、歩みとともに近づいてくる。素晴らしい景観。大好きな場所である。

快晴のもと、上河内岳山頂に8時40分。聖岳、赤石岳、荒川岳の三峰が堂々と聳える。富士山はもう雲の中。雷鳥親子がお出迎え。まったく逃げる気配がない。先は長いのに、40分ほど長居してしまう。

急いで下山。茶臼小屋を経て、激下りで横窪沢小屋に12時着。テントを撤収して、そこからは嫌になるほどの樹林帯の下り。暑くて汗だく、そして重荷が膝にこたえる。やっとのことで、登山口に15時20分到着。さらに林道40分で、沼平ゲートの車に16時にたどり着く。11時間行動。変化に富んだ充実の1日だった。

白樺荘で汗を流し、静岡駅で娘とお別れ。なんだか寂しいのは、歳のせいか。

スッと帰れば、日付が変わった頃に神戸に帰れそうだったが、高速道路に入ると急に疲れが出て眠くてしょうがない。仮眠、ドライブを繰り返し、帰宅したのは朝6時前。シャワーを浴びて髭を剃り、すぐ出勤となる。

「こんなん、60代の遊び方とちゃうで」と、同居している上の娘が突っ込みを入れてくるのも、また楽しい。

長い畑薙大吊橋を渡る

横窪沢小屋のテントサイト　気持ち良い

主食は私が、副食は娘が担当

目次

上河内岳山頂から、聖岳、赤石岳、荒川岳

草原の向こうに、上河内岳　良い山だ

上河内岳山頂にて

目次

四 国 遍 路　2023年7月24日～27日

川野幸彦　(昭56理)

〔はじめに〕

私事ですが今年4月に65歳で定年退職しました。自由な時間ができたので、これまでに行けなかった所に手軽に行けるようになりました。早速、以前から気になっていた四国お遍路さんを巡ることにしました。

四国お遍路さんは、ご存知のように四国の八十八か所のお寺を巡ります。最初に行ったのは空海(弘法大師)で今から1200年程前だと言われています。完全な徒歩の場合の距離は約1200 km。日数は30～50日ほどかかると言われています。大阪・東京の往復以上の距離です。従って、ほとんどの巡礼者はクルマかバスツアーです。徒歩巡礼は全体の数%以下のようです。その他、自転車の方もいます。私は、徒歩が主で公共交通機関とヒッチハイクを組み合わせたハイブリッド巡礼の予定です。巡るお寺は1番霊山寺(りょうぜんじ)からです。順打ちと言われるものです。なお、88番大窪寺(おおくぼじ)から巡るのを逆打ち。ランダムに巡るのを乱れ打ちと呼ばれています。一気に巡るのは体力的に不可能なので何回かに分けて行います。これは区切り打ちと呼ばれています。数年かけて全てを巡るつもりです。今回は梅雨明けの炎天下で猛暑のなか1番から17番まで巡りました。思いのほかハードでした。以下報告です。

7月24日(月)快晴　1番霊山寺→5番地蔵寺

大阪駅前7:30発の高速バスで徳島へ向かう。徳島には10時過ぎに到着。10:30のJRで坂東駅に11時前に着いた。ここから15分ほどで1番霊山寺(りょうぜんじ)である。私以外に外国人女性を含む5人の歩きお遍路さんらしき人がいた。霊山寺の売店で地図、菅笠、納経帳、お札を買った。6600円也。このお寺には、お遍路さんの支度のための売店が数軒ある。お参りをしていたら、お寺のおばちゃんに声を掛けられ今夜の宿のことを聞かれた。「何も考えていない。」と答えたら宿を紹介してくれた。寿(ことぶき)食堂という民宿の電話番号を教えてもらった。また、宿も準備があるのでできるだけ早く予約したほうが良いとも言われた。更に、接待のお菓子もくれた。親切である。知らなかったが、宿の確保は大切で午前中には予約を入れないといけない。そうでないと素泊まりか泊まれなくなる。お参りと納経(300円で12番焼山寺以外は同じ値段。焼山寺は500円)を済ませ次の寺に向う。2番極楽寺(ごくらくじ)は国道を西に歩いて20分ほどである。人が少なく静かなお寺である。ここで昼食を取った。3番金泉寺(こんせんじ)へはお遍路道を辿る。畦道や山道もある。金泉寺まで40分ほどである。金泉寺では、納経所でガチガチに凍ったペットボトルを貰った。暑いのでありがたかった。ここから4番大日寺(だいにちじ)までは5 kmほどであるが、猛暑と最後の緩い登りでバテ気味であった。それにしても暑い。梅雨明けの日差しと高温は強烈であった。途中の幾つかの水道では頭から水をかぶり身体を冷やした。バテバテで大日寺に到着。お参りと納経を済ませたら急に気分が悪くなりしばらくベンチで横になっていた。軽い熱中症のようである。無理をしないでタクシーを呼んだ。5番地蔵寺(じぞうじ)をダッシュで参り、寿食堂までタクシー代1700円。寿食堂はお遍路向けの民宿で1泊2食7000円。客は、私以外におばちゃんとフランス人の23歳の兄ちゃんのみ。夕食時にビールの大ビン2本飲んだら

目次

直ぐに爆睡。この宿は家族経営で皆さん大変親切であった。徳島の人はいい人が多いと初日から感じた。ここには忘れていた人情が残っている。

7月25日(火)快晴 6番安楽寺→11番藤井寺

7:30に出発。ゆっくり歩いて20分ほどで6番安楽寺(あんらくじ)。ここは宿坊もある立派な大きなお寺である。トイレもキレイであった。早速使った。7番十楽寺(じゅうらくじ)までは20分ほど旧街道を行く。十楽寺にもキレイな宿坊がある。また、ここには縁結びと縁切りのお堂があった。8番熊谷寺(くまだにじ)までは1時間半弱。途中に緩い登りがありしんどい。今日も暑さでバテ気味である。多宝塔もある立派なお寺である。お参りのお遍路さんも5～6人いた(全てクルマ巡り)。9番法輪寺(ほうりんじ)へは急な下り坂のあと、田んぼの中の街道を40分ほどである。小さなお寺である。野外の休憩所で大型扇風機に当たりながら昼食。それにしても暑い。水をがぶ飲みである。10番切幡寺(きりはたじ)へは1時間半。最後の登りがしんどく、さらに333段の階段があった。ハードである。寺の最上部には大塔があったが周りに雑草がたくさん生えていて見苦しい。刈って欲しい。今日は切幡寺の麓の宿に泊まる予定であったが、フラフラと歩いていると、吉田さんという方が次の11番藤井寺(ふじいでら)まで「クルマに乗せてあげる。」と声をかけていただいた。甘えることにした。途中、吉田さんの管理する接待所に立ち寄り藤井寺まで。吉田さんのおじさんは130回巡ったそうである(多分、全てクルマ)。藤井寺でお参りを済ませ旅館吉野に泊まった。1泊2食7000円。宿泊客は私以外に2名のおっちゃん。お二人とも無職。夕食時に瓶ビール大を2本飲んで爆睡。明日の12番焼山寺(しょうざんじ)は山越えのハードルート。ここから6時間ほどかかるらしい。まあ、宿の人によると"ハイキングコース"らしいが。

7月25日(水)快晴 12番焼山寺

7:30に出発。余計な荷物を本日の宿泊施設である"すだち庵"の方が取りに来てくれるので、水2ℓとおにぎり2個等を持っただけである。今回はお遍路さんの実態が分からずに荷物を持ち過ぎた。ビバークの用意もしたが、宿に泊まるのなら不要である。雨具と現金だけあればよい。12番焼山寺(しょうざんじ)までは「お遍路ころがし」と言って山越えの"難所"と聞いていたが、実際はよく整備された登山道であった。標高差560mと245mの二つの山越えと最後の標高差300mの登りがあるが、登山好きにとっては暑いだけで全く問題ない。これらは"遍路ころがし"と呼ばれ難所とされる。また、緊急の場合は、2か所ある峠からタクシーを呼ぶこともできる。そこにはタクシー会社の看板がある。まあ、お遍路さんは全てが登山愛好家ではないのでハードさが誇張されているようである。11番藤井寺(標高40m)からは直ぐに登りにかかる。樹林帯で日が当たらないのがよいが、アブなどの虫がうっとうしい。防虫ネットが役立った。水大師と呼ばれるチョロチョロと水が流れる水場を過ぎ、尾根道を行くと長戸庵。さらに標高600m付近まで登り、ここから急な坂を下ると柳水庵(りゅうすいあん)である。古い建物が幾つかある。また、避難小屋のような数人は泊まれる小屋がある。ここは湧水が豊富で頭から水をかぶった。また、水も冷えていて美味しかった。なお、ここは焼山寺までの中間点である。休憩も入れて3時間ほどで着いた。コースタイム通りである。柳水庵から林道を経て急な登りを終えると浄蓮庵(じょうれんあん)。高さ約3mの弘法大師様の像がある長細いピークに到着。ここから急な下りを終えると林道に出合う。ストックが役立つ。最低部の谷川の橋から急登を終えると焼山寺の参道に出た。この最後の登りはきつかった。約1時間。ここから10分足らずで本堂である。焼

山寺は大きなお寺である。自転車のお遍路さんが一人いた。お参りと納経を済ませ 1 時間ほどの下りで、本日の宿であるすだち庵(1 泊 2 食 6500 円)に到着。膝がガクガクである。ここは、廃校となった小学校の職員官舎を改造した古い建物である。エアコンもなく扇風機だけで、山小屋のような所であった。夕食はカレー。今夜は昨日一緒だったおっちゃん二人と前々日のフランス人のお兄ちゃんの 4 人が泊まった。ここのオーナーの角田(すみだ)さんは人懐っこい気さくな方であった。今夜もビールを飲み爆睡。山の中なので星が綺麗であった。

7 月 26 日(木)快晴　13 番大日寺→17 番井戸寺

4 日目である。そろそろ体力的にもきつくなってきたので、本日帰宅することにした。ここから 13 番大日寺(だいにちじ)までは 20 kmの下りらしいが、ちょうど買い物に行くオーナーの角田さんのクルマに乗せてもらうことにした。13 番大日寺は、集落の中の小さなお寺であった。ここから 14 番常楽寺(じょうらくじ)までは、炎天下の歩きでしんどい。途中、工事現場のお兄ちゃんに冷えたアクエリアスを貰った。接待である。美味しかった。14 番常楽寺までは 1 時間弱。常楽寺は小高い丘の林の中にあった。ここから、韓国人の大学教授の金さんと一緒に行く。この方は日本民俗が専門で、大阪大学への留学経験もあるらしい。15 番国分寺(こくぶんじ)までは 15 分ほど。割と大きいお寺である。16 番観音寺(かんおんじ)までは 30 分ほどで田園地帯を行く。観音寺は小さいお寺である。金さんはここでタクシーを呼び先へ進んで行った。ここで昼食を取った。17 番井戸寺(いどじ)までは 40 分ほどで街中から田園地帯を歩いた。井戸寺は大きいお寺であった。ここから JR 府中駅に戻り徳島駅へは 15 分ほどである。高速バスで大阪に戻り、帰宅したのは 19 時頃であった。疲れた。

(後記)

真夏と真冬はお遍路さんのシーズンオフである(春と秋がシーズンである)。今回、気温は大阪よりも数℃低いが暑さは強烈であった。特に照り返しが凄い。強力な日焼け止めクリーム(資生堂のアネッセ)を塗ったが防ぎきれなかった。よって、4 日間ですれ違う歩きお遍路さんは全く見かけなかった。クルマやバスツアーの方ばかりである。この人たちは、格好もキレイで、私のような汗だくはいなかった。反面、人は少なくお参りや納経はスムーズであった。夏山登山では猛暑を避けるために、早朝3時ごろから行動をしていたが、お遍路さんではそれができない。お寺の営業時間が朝8時ごろから夕方17時頃までで、早朝にお参りしても納経所が開いていない。また、服装は白装束で夜に歩くと"もののけ(物の怪)"が寄って来るらしいので昼間の明るい時間に歩くそうである。

以上

目次

京都一周トレイル　7月3日／8月21日

川野幸彦　（昭56理）

（はじめに）

京都一周トレイルは京都市街地を取り囲むコースです。30年程前に整備されたらしいです。私が山岳部のころはありませんでした。距離は、東山・北山・西山と京北を含めて約130kmです。一気に行くと1週間足らずですが、自宅からの通いで何回かに分けて巡る予定です。道標も完備されほとんど迷うことなく辿れます。もっと歩かれてもよいルートだと思います。なお、私はこのトレイルを過去に部分的には歩いています。以下報告です。

7月3日（月）晴れ

伏見桃山→伏見稲荷大社（約4時間半）

京阪伏見桃山駅を10時過ぎに出発。ガイドブックの地図に従って進むが、地図の縮尺度と自分のイメージが一致せずに地図読みに苦労した。細かい部分と大雑把な部分が混在しているように思えた。少しして慣れはしたが。こんな具合なので伏見桃山城までは結構時間を喰ってしまった。伏見桃山駅から伏見桃山城まではやや登りで車道や山道であった。それにしても蒸し暑い。水をがぶ飲みである。汗だくで不快である。伏見桃山城は木に囲まれた中に建ち思っていたよりも小さく感じた。残念ながら敷地内は立ち入り禁止である。一般開放したら観光客が詰めかけるであろう。お城からは林の中の散策路から丘陵地を行く。道標がしっかりしていて迷うことはないが、なだらかな登りが辛かった。大岩山展望所からは、樹林帯の下りとなり湿っていて不快であった。大岩街道に出て名神高速道路をくぐり抜けて、途中から山道に入ると間もなく伏見稲荷大社である。今回はここまでである。それにしても外国人が多い。観光客の9割は外国人のように思えた。浴衣で歩く人も目に付く。お参りをして、伏見稲荷駅近くの食堂で親子丼を食べた。この食堂も外国人ばかりであった。隣の中国人一家と話をした。セルフサービスのお手拭きを取ってあげたが、何を言っているのか分からなかった。このあと京阪電車で帰宅した。今日は2ℓ以上の水を飲んだ。お陰で熱中症は防げた。

8月21日（月）晴れ

伏見稲荷大社→清水寺（約4時間半）

伏見稲荷駅を10時過ぎに出発。今日も晴れていて蒸し暑い。本日の京都の予想気温は38℃である。日焼け止めクリームをベタ塗りし、氷水とスポーツドリンクを合わせて2ℓ持った。伏見稲荷大社は相変わらず外国人観光客で溢れていた。様々な人種がいた。コロナ禍では寂れていた土産物店や食堂も大繁盛である。何よりである。伏見稲荷大社四つ辻から泉湧寺を目指す。四つ辻を過ぎると観光客もいなくなり静かになった。泉湧寺からは、以前通ったときは分岐点を見過ごして遠回りしたが、今回は非常に分かりにくい道標を見つけ進んだ。ここから剣神社までは樹林帯や市街地を通った。途中、急病人を運ぶ消防車（救急車ではない）やトレランのおばちゃんに抜かれ、山道に入った。虫がうるさい。虫よけスプレーは必携である。国道1号線に出たが、コンクリートの中央分離帯があり横断できない。以前は国道を通行する車の合間を狙って強引に渡ったが今はできない。歩行者用の地下道をくぐるのだが分かりにくい。国道を渡り清水寺までは直ぐである。清水寺も外国人観光客で溢れていた。清水寺からは参道を下り京阪五条まで。蒸し暑さでバテ気味であった。自販機の冷たいお茶が非常に美味しかった。汗を一杯かき今夜のビールは格別であろう。京阪電車で帰宅した。次回は、大文字山から銀閣寺を目指す予定である。

（追付）

京都一周トレイルは気軽に楽しめる山歩きです。休日はトレランやマウンテンバイクで走る人で混みますが、平日はほとんど誰にも会いません（真

目次

夏のためかもしれませんが)。ただ、この時期は、低山特有の虫が多くて防虫ネットや虫よけスプレーは必携です。水ですが途中に自販機があり補給できます。冷たい水は大変美味しいです。ガイドブックはネット販売で購入しました。1400 円。地図や解説も細かく記載された優れものです。是非、ご覧ください。

続・四国遍路　2023年8月29日～30日

川野幸彦　(昭56理)

8月29日(月)快晴　18番恩山寺→19番立江寺

今回は、7月に巡った(1番霊山寺～17番井戸寺)続きである。大阪駅7:30発の高速バスで徳島へ向かう。10時頃に徳島へ到着。10:30発の JRで南小松島までは20分ほどである。南小松島駅はこの辺りの駅として大きい方で駅員さんや観光案内もある。この線の駅は寂れていてトイレのないところが大半である。注意が必要である。バス停と同じ感覚である。ただ、列車には必ずトイレがあるのでそこで済ませたらよい。駅で準備をしていると、観光案内のおばちゃんが現れ 18番恩山寺(おんざんじ)への地図や周辺の見どころを説明してくれた。親切であった。駅前には豊富な湧水があり地元の人がタンクに汲んでいた。私も飲んだが冷たくて美味しかった。駅前からは田園地帯の旧道やバイパスを経て1時間ほどで恩山寺である。山の中腹に建つ小さくて静かな山寺である。ここで、台湾人とイタリア人の男性お遍路さんに会った。お遍路さんには外国人が多いようである。お二人とも英語版のガイドブックを持っていた。こんなガイドブックがあるのだと感心した。お参りと昼食を済ませ 19 番立江寺(たつえじ)に向かう。少し倒木で荒れた山道から村落の旧道を抜けると1時間強で立江寺である。今回は前回の7月よりはマシだが暑くてハードである。スポーツドリンクと水をがぶ飲みである。1時間毎に500mℓ飲んだ。汗だくである。しかし熱中症対策には仕方ない。立江寺は大きくて立派なお寺であった。お坊さんも5～6人ほどいた。お参りを済ませ本日の宿"金子や"を目指す。この宿には昼頃に予約の電話を入れたが素泊まりのみであった。食事は御主人の体調が悪く提供できないと言われた。ここからは、村の中の旧道や国道、バイパスをクルマに注意しながらひたすら歩いた。歩道がなく直ぐ脇を大型車が通るので危ない。寺から宿までの距離は約10kmであるが暑さでピッチが上がらない。途中のコンビニで少し早い夕食を取り明日の食料を買った。少し行くとバス停があり丁度バスが来る時刻になり、残り数キロはバスで移動した。170円也。宿は古い建物で、宿泊客は私以外に三人。歩き遍路さんお一人とクルマ遍路さんのご夫婦のみである。風呂に入り洗濯をしてビールを飲んで爆睡。

目次

8月30日(火)曇り⇒雨⇒晴れ　20 番鶴林寺→22 番平等寺

6 時半ごろに出発。朝は爽やかである。秋は近い。宿から少し行くと山道となる。これから標高差約 400mの登りである。1 時間半ほどで 20 番鶴林寺(かくりんじ)に着いた。山門に大きい木彫りの鶴があった。ここも山寺であるが大きい。お参りを済ませ急な階段の登山道をひたすら下った。膝への負担が大きい。膝サポーターとストックが有効である。40 分程で小学校跡に出てこの先の休憩所で腹ごしらえ。ゆっくり休んでいると突然雨が降り出した。結局ここで 40 分近く雨宿りをした。那賀川にかかる永井橋を渡り再び山道に入る。この辺りから雨が断続的に降り傘をさしたが結構濡れた。それに蒸し暑さが加わりピッチが上がらなかった。途中で、昨日同宿の兄ちゃんと台湾人のおっちゃんに抜かれた。鶴林寺から 3 時間半ほどで 21 番太龍寺(たいりゅうじ)に到着。バテバテである。このお寺も大きい。山門から本堂までの階段がきつかった。ロープウェイが麓の駐車場から続いている。お参りを済ませのんびりしていると昨日のイタリア人のおっちゃんに会った。大きい荷物でパワフルである。ここから雨の中を徒歩で下るのが嫌になりロープウェイに乗った。わずか 10 分で麓である。麓は晴れていた。どうも先ほどの雨は局地的なものらしい。ロープウェイは片道 1300 円。空中からはニホンオオカミの数匹の黒い像が見えた。この辺りには明治時代までニホンオオカミが生息していたらしい。ロープウェイ降り場からバスと JR を乗り継ぎ JR 新野駅まで。ここから 22 番平等寺(びょうどうじ)までは 30 分程であった。平等寺は小さいお寺である。お参りを済ませ、本日の宿"日の丸商店"に到着。完全な民家である。ここも素泊まりのみで、夕食は奥さんとクルマでコンビニに買い出しに出かけた。同宿のイタリア人のおっちゃんとお孫さん二人(小学 2 年男の子の大和くんと保育園児女の子の桜ちゃん)も一緒である。子供たちは翻訳機を使いイタリア人のおっちゃんと話していた。ちなみに私と初めて会ったときに"中国人"か？と聞かれた。これまで何回か中国人に間違われたことがあるが服装が原色に近い派手なものだったからかもしれない。この日の服装は、黄色い靴に黒のジャージ、黄色のシャツであった。子供たちを見ていると 4 人の孫を思い出した。人懐っこく可愛らしい。この宿は家庭的で皆さん親切であった。夕食があれば更に快適なのだが。今夜もビールと焼酎をのみ爆睡。

8 月 31 日(水)曇り時々雨

昨夜は断続的に強い雨が降った。今日の天気は悪そうである。新野駅まで奥さんと桜ちゃんにクルマで送ってもらった。列車での見送りまでうけた。8:03発。ここから 30 分程で日和佐駅。ここまで歩けば約 20 km で 5～6 時間はかかる。駅からは 10 分で 23 番薬王寺(やくおうじ)である。目の前に見えた。このお寺も大きい。本堂や厄除け坂の階段はきつい。そのためか麓の山門脇には杖やストックが置いてあった。無料貸し出しである。このお寺は厄除けが有名で、私の長男一家と嫁さんも以前に参詣したことがあるという。今回のお遍路はここまでで帰阪することにした。タイミング良く9:56発の大阪駅行の高速バスがありそれに乗ることにした。大阪まで約 4 時間半で料金は 5500 円であった。なお、高速バスと言っても徳島までは下道である。今回で徳島県内のお寺巡りは終わった。次は室戸岬から再開の予定である。

以上

目次

―随　想―

山岳部先輩・同輩から教わった俗話　その2

牧野　宏　（昭36経）

1　（名誉会員顧問）　　山本三郎先生

体育の授業は体を鍛えるだけが目的でなく、出会い頭の交通事故から身を守るとか、日常生活の機敏な動きを養うことです 。

先生の甲南着任と私の中学入学が同じ年でした。

摂津の生徒は坊っちゃん刈りで革靴、播磨組は丸坊主に運動靴、格差があり過ぎて、先生が自宅で激励会をしてくれました。すき焼をご馳走になり、UCCの上島達司君をはじめ播磨組にエールをいただきました。

余談ですが一の谷での国境は、気候風土の違いなど昔の国分けは理に適っています。

2　（32経）　・　柳澤　正先輩

親が死んでも食休み。 行動中必ず食事休憩を実行した。

私は今でもやっています。

部室で『山岳部一の秀才は柳澤さんや』と私が言うと、柳澤さん（りゅうさん）は即座に『なにゆうとんねん、同期の中井久夫は俺より千倍上の一番や 』

3　（36理））　　越田和男同輩

どこへ行くのも懐中電灯を持参せよ。

私は時々忘れて難儀した。

彼は日本触媒工業（株）よりオレゴン大学へ昭和41年から2年間 留学した。

その際、家族旅行でどこかの草原にテントを張ってキャラバンしている写真を見て、彼はスケールが違うと感心しました。

4　（32経）　　阿部公義先輩

荷物をかついでも山屋はパラレルスキーせなあかん。

私はガチャさんに教わったボウゲンでべーさんのお眼鏡には叶いませんでした。

訃報に接しご冥福をお祈りいたします。

目次

中井久夫さんの「穂高・涸沢行」の周辺

越田和男　（昭36理）

中井久夫さん（1934～2022年）　1952（昭和27）年新制甲南高校卒、京都大学医学部卒、神戸大学名誉教授

精神科医にして文筆家。博識だとか碩学では失礼。「知の巨人」と呼ばれるのがふさわしいとされる山岳部の先輩だが、恐れ多くて小生は面識なし。その中井さんの数多くの随筆集のなかに、（敗戦直後の山岳部北アルプス行き）と題する一文がある —『日時計の影』みすず書房　2008年11月。この一文は前年に出された我が『山嶽寮』No 62（2007年）からの転載であり、当時『山嶽寮』の実質的な編集を担当してくれていた大森雅宏君が、大原耕治（オニ）さんの口添えで原稿をいただくことに成功したという経緯がある。

食糧調達、鉄道切符の獲得も儘ならぬ高校生時代の山行きの懐古文で、時代背景と共に学制改革直後の甲南の学園事情など、興味深い内容につられて、もう少し山行の具体的な実情を調べて見ようと思った。ところが当時の山行記録は皆無に等しく、執筆の中井さんにとっても、それは何十年もの昔の話で、思い出しながらの執筆に難儀されたのではないかと、凡人は思ってしまう。

甲南に残された資料は唯一つ。甲南高校山岳部・甲南山岳会『時報』No.1（1952）の記録欄に「穂高涸沢合宿」というのがあり、年月日と参加者名のみが記されていた。

昭和25年7月24日～8月2日
高2：中井久夫　柳沢正　坂口宏志　前田義定
　　十河与四郎
高1：阿部公義　宮本侑
中3：田邊潤　米山悦朗

中井さんの文章によれば、涸沢合宿中雨ばかりで、アタックに出れたのはたった一日。奥穂頂上で2組に別れ、一隊はジャンダルム方面へ、他の一隊は前穂方面を目指したとある。中井さんはザイルの不要な前穂パーティを選んだとある。驚いたことに、この上記メンバーで現在ご存命は最年少だった米山（パブ）さんのみ。パブさんと話してみたが、さすがのパブさんにも忘却の彼方のこと。それでも参加者名を告げると断片的に当時のシーンが思い出されるようだった。パブさんも前穂組だった。パブさんは現在、阿部（ベー）さんの追悼文を執筆中で、その中に、少しはエピソードなどを入れておくとのことだった。

私が聞きかじって思い出すのは、中井さんの文中に、合宿中同行の友人と大喧嘩をしてしまったというくだりである。ずっと後に田辺（ガチャ）さんから聞いた話ではあるが、テント内でのすざましい口論で、しまいにドイツ語やら何語やら外国語が飛び交ったいたらしい。

旧制高校生気質の残り火だったのだろう。

この年は3月に旧制甲南高校が閉校。甲南大学はまだ開校に至らず、翌昭和26年に開校、甲南大学山岳部の創部はさらに翌年。従って甲南山岳部としては新制高校山岳部のみが存在し、かろうじて旧制山岳部OBとの人的繋がりに加えて、部室や共同装備などと共に伝統を引き継いだ形とな

目次

っていた。旧制最後の年代が川崎厚二さんで、既に甲南を去り、しかも、新制高校3年生に山岳部員ゼロ。高2から中3の少年たちが、勿論付き添いの教官などという発想はなく、食料調達に知恵を絞り、超満員の列車を乗り継いで上高地入りを果たしたのだった。徳澤に一泊幕営後、涸沢に入ると、既に4～50のテントが張られていたというから驚きだ。

興味を覚えるのは、釜トンネルの通過。戦後、釜トンネル経由上高地への直通バスの運転再開は昭和25年7月だった（菊池俊朗『釜トンネル』信濃毎日新聞社 2017 年）。中ノ湯迄は木炭バス、馬力のない木炭バスでは釜トン内の急勾配は登れず、やや小さいガソリン車に乗り換えて通過していたらしい。この年やっと30 人乗りのガソリン車一台の調達に及び、その車両のみが直通運転したのだろう。中井さんたちは木炭車だったらしく、乗り換えさせられた。帝国ホテルは進駐軍が接収中で戦後の営業再開は翌年のことだった。

私事だが、小生の初めての上高地入りも翌年の昭和 26 年の夏のこと。平湯温泉から安房峠の旧道を経て、ガソリン車のバスで、難なく釜トンを通過して西糸屋に泊った。既に東京からの観光客が多く、関西弁では肩身が狭かった思い出がある。

ところで、昭和 25（1950）年といえば。フランス隊による世界初の8000メートル峰アンナプルナ 8091m の初登頂がなされた年である。6 月 2 日の初登頂だったが、携帯ラジオもなかった北ルプス山中でキャンプ中の高校生に、そんなニュースが伝わるはずもなく、話題にもならなかったのだろう。しかし、その翌年の 1951 年には甲南 OB の伊藤愿さんがマッターホルンに日本人として初めて単独登頂に成功したり、2 年後の 1952 年の日本山岳会のマナスル踏査隊には同じく甲南OBの田口二郎さんが隊員に選ばれて参加した。そして更に翌年 1953 年は、あの英国隊にエヴェレスト初登頂。山の世界の動きも、世の中の動きに合わせて加速度がついた、そんな時代だった。

中井さんは、この山行のあと、結核を患われ山からは遠ざかってしまわれたが、京大に進まれたころ、山への思い断ち難く、甲南の時報に「山と人間」と題する一文を寄せておられる（甲南山岳部・甲南山岳会『時報』No.II 1953 年）。なかなかの名文で、全文の再録はまたの機会に譲るとして、ここではその第一節のみを引いておく。

（今年も山へ行けなかった。乏しい金と病後の体躯とは暫く僕を山からとおざけるだろう。併し山は未だその僕の心を惹く力を弱めたのではないらしい。皆が山へ行った事を耳にするだに僕の心は何かやるせなく、平地の事物は全て、にわかにその光を失ってみえて来る。僕は暫し追憶と空想に身を任す。今日も夏雲は六甲の戴に沸きたっている。いつの日か蓼科山に沸き立っていた様に。）

そして中井さんは未練を残して山から離れて行った。穂高連峰との再会は、50 歳前後のある晴れた秋の一日、小諸での学会を済ませた先生は若い医学徒を引き連れて徳澤まで往復。もっと先の横尾まで進みたかったが、もう歩けないという若手に妥協して、心を残して上高地を去ったのだった。そして、芦屋ロックガーデンの甲南山岳会の慰霊碑銘板に名を入れるのは辞退されたままとなっている。

（2023 年 8 月　横浜にて）

目次

OB会の思い出

飯田 進　(昭38経)

新橋の、とある飲み屋で。おーい福でん、エロ歌歌おうか。よっしゃ歌いましょ。一つでたほいのよさほいのほい。

田口さんと福でんさんのやり取り。もし部下の方が居られたら、びっくりしたでしょうね。小生東京に出たのは30を少し過ぎたころ。当時新制のOBは東京には少なかった。OB会をやったら旧制の方々の方が多かった。田口さんはじめ、松野さん、飯沼さん(永井智雄—俳優座) だいもんさん(山口省太郎)、とよはち(喜多豊治)さんなど多数来られていた。宴が始まったころ一人の恰幅のいい方が宴会場に入ってこられた。俺や、イノキンや、ええイノキンか、久しぶりやな、40年ぶりか。のやりとり。俺30過ぎ、まだ生まれてない頃からか？井上正憲さんだった。どれだけの方々が出席されていたかは記録がないので紹介できないのが残念だが、旧制の方々は皆さん親切丁寧に接してくださった。

当時、東京と関西のOBが一緒になるのは、秋のOB会、福島清喜さんの縁で乗鞍高原、鈴蘭荘だった。その頃は車が畳平まで入れた。10月初頭紅葉が綺麗な頃で、特に位ヶ原山荘の少し上あたりが見ごろ。それはそれは見事な紅葉で、小生バカチョンで撮って、後日田口さんに写真を送ったら、君写真上手いね、と返事が来た。それくらい見栄えがした、ということ。このころ、会長は鷲尾さん。真面目を絵にかいたような方。前触れも説明も丁寧そのもの。それを察して、田口さんが、「飯田君、説明の前に乾杯だけでも済まそうや、と言ってこいや」。でそれを伝えたところ、「あかん！」で終わり。夜の宴会になると、アヒルさんが気炎を上げ、歌って踊って会を盛り上げた。ご存じアヒルさんは、肩書の割には大変気さくな方で、我々若手OBにも気楽に接していただいた。ある時キナバルの写真を手に、キナバル登山の話を。このトラバース結構急でやばかった、など写真を見せながら当時の話を語られ、その中で、キナバル登山メンバーのリーダーを早稲田山岳部OBの方がやっていたのだが、ある日アヒルさんがそのリーダーに、おれ佐野源さん知ってるぜ、と一言。次の日からアヒルさんがリーダーに。その佐野源さん、シベリア抑留で大変苦労をされた方だが、早稲田の山岳部でもつとに有名。小生日本山岳会に入ったころ、山岳史で有名な山崎安治さんが源さんの後輩で、源さんのことをよくご存じで、小生がその後輩ということで、コッシンともども親しく付き合ってくださった。その佐野源さんとダイモンサン(山口省太郎)がよくスキーに行っておられた。ご存じダイモンサン、スキーの無制動回転の理論、なる論文をかいておられた。旧制のOB方誰に聞いても、わからん。であった。それでその論文を入手、よんでみた。読んでわかったのは、それが所謂ハウツーもの。ゴルフの上達物をよんで、ゴルフが上手くならないのと同じようなもの。戦前の登山靴にカンダハー、の時代、ウェーデルンやれるわけがない。旧制の上等の頭脳をもってしても、理解できないのもごもっとも。要はスキーの板を斜面の上から、斜め下に滑らせたら、次第にスキー

目次

の先が谷に向いて滑り出すのと同じ理屈。と、言ってもわかってもらえないかな。まあともかく圧縮されたゲレンデのない時代。小生の時代でさえ、水橋の単板であった時代、よくあんな理論を書けたなと、さすがダイモンサン。このようなOB方と親しくお付き合いできるのも、甲南山岳会の良いところ。今までいくつかの山岳会OBの人たちとお話する機会があったが、甲南のように先輩後輩が和やかに談笑してる会は珍しい。大抵はあいつとは口聞かん、あの先輩来たら、俺帰る。といったような調子でなかなか和やかにいかないようだ。

OBになって現役の合宿に参加されたOBに、フクデンさん(福田泰次)がおられる。五月の不帰岳合宿に来られた。八方押し出しから丸山までハミリを撮りながらこられ、会社があるからここから帰る、ということで、降りてゆくとこを八ミリで撮ってくれ、とカメラをわたされ、撮ったのはいいが、後で、飯田お前顔ばっかり撮って景色映ってないじゃないか、とクレームついた。そのフクデンサン、学生時代家出をしたらしい。OBたちが心配して、探し回ったがわからない。そんな時、田口さんが勘働きで、あそこじゃないか、ということで、行ったのが、穴毛谷の奥の大きな岩。その上にフクデンサンがチョコンと座っていたそうな。フクデンサンと仲の良かったのが、文三さん(伊藤文三)。ある時フクデンサンの会社に訪ねた時、大きな副社長室の大きな机にいっぱい地図が広げてあったそうな。よく見たら全部山の地図だった。あいつ会社でなにやってのか？と文三さん、つぶやいていた。その文三さんとはちょくちょく軽登山にお付き合いした。ガネッシュヒマールの登山隊長もすこし年を取っておられたから。お酒を飲まれないので、夜のお付き合いはなかったが、昔話はよく聞かされた。例えば加藤文太郎が北鎌尾根での遭難の時、槍の小屋で邂逅した話など。ほとんどの話を朦朧としてきた今日、小生も86歳、年だけでは立派なOBとなってしまった。

目次

高遠山荘でのシェーン

柏 敏明　（昭41経）

先日、ケーブルテレビで「シェーン」を久し振りに見ました。アランラッドが主演でしたが、小生は悪役だった黒ずくめのジャック・パランスに魅力を感じたものでした。ラストシーンで去っていくアランラッドに、「シェーン　カーンバック～」と、子役が呼びかけるシーンを見て、ガチャさんの懐かしの高遠山荘の一夜が思い浮かんできました。あの日も大関さんの豪華夕食を戴きながら、話題は翌日の予定から始まり、スキーテクニック、合宿の思い出とアッチコッチに飛んで、何時も通り盛り上がっていました。最後に映画の話題になり、確か、飯田さんが「シェーン」のラストシーンにオートバイが写っていると聞いたと話され、ひとしきり盛り上がったのを思い出したのです。何時ものパターン通り、そんな筈はないとか、否、写っている可能性はあるとか。各人、談論風発。なかなか結論が出ませんでした。その場で結論が出る内容ではなかったのですが、その時；ガチャさんが確か「シェーン」のDVDがあった筈と探しに行かれ、見つけて来られたのでした。その是非を確認しようとDVDを早送りし、ラストシーンを、繰り返し、繰り返し皆で見ました。馬に乗って去っていくシェーンに向かって、子役が「シェーン　カーンバック～」と叫び、そのエコーと共にシェーンが画面から消えて遠景になった時、皆が一斉にストップと叫んだものでした。テレビに近寄って、何回もそのシーンを前後して見ました。画面でオートバイそのものは確認出来ませんでしたが、確かに砂煙の様なものが小さく遠景に写っておりましたが、それが果たしてオートバイの砂煙かはわかりませんでした。ガチャさんが亡くなられて、早いものでもう6年余りが経ちました。今、こうして高遠山荘を思い出すと、本当に懐かしく、いい経験、いい時間を過ごさせて頂いたと思います。雨宮さんの松川山荘、塩崎さんの大山山荘、普通では別荘なんて考えられない世界。お蔭様でそれぞれの山荘にも、度々お世話になり、楽しい時を過ごし、思い出を作らせて頂きました。改めて感謝、感謝です。ここまで書いて、ふと、このシェーンの話は掲示板かどこかに書いたのではないかと思い浮かんできました。人間、年を取ると同じ話を何回も繰り返すといいます。ましてや、80を越えるともう仕方ありません。その節はご容赦願います。

目次

—寄　稿—

山登りの写真を見て、絵を描いています

森本美子様　（故森本全彦会員　ご遺族）

昨年は皆様のおかげで慰霊碑まで登らせて頂き、心より感謝しております。森本も、もうそれで良かったのか、夢にも出てきません。

最近、山登りとネパールの写真を見て、絵を描いています。描きやすい写真を探していたら、白黒の名刺版位の昔の山スキーの写真が出てきました。昔の形のウェアなので、多分、学生時代の山スキーではと思いましたら、白馬の栂池ではないかと教えて頂きました。

森本も近くの山へ行くと、殻付きドングリや、紅葉のもみじ葉を絵の材料にと取って来てくれました。拙いスケッチですが、描いていると無心になれて助かります。

森本はいつも山の景色とともに、暮らしているようでした。山行の写真、いい顔しています。スケッチ教室の先生から、生きておられる時に描いてあげていたらと・・・。でも、描くことで寂しさが少しずつ、少しずつ、薄らいでいます。今はどこの山に登っていることやら。生前は大変お世話になり、有難うございました。

目次

―追　悼―

阿部公義さんのこと

米山悦朗　（新高昭29）

10年ほど前、ガチャの会で中尾平ホテルに泊まり、同室で一夜を過ごしたのが彼との最後の出会いであった。朝起きると息をしておらず目を開けたままなのでびっくりしたが、かねて無呼吸症候群と聞いていたのでしばらく放っておいたら起きてきて、本人は全くそれに気がついていなのにびっくりしたのを未だ覚えている。

想えば、初めて一緒に山に登ったのは私が中学2年の時、ミヤントとベー以外の上級生は誰がいたか覚えていないが、荷物は私物以外全部持ってくれて涸沢に行き、彼らが前穂の第三峰を登っている間天番をして、翌日は奥穂から前穂、翌々日は北穂に連れて行ってくれた、今から思えば大サービスの登山をさせてもらい、山岳部に入ってしまったのがベーとの付き合いの始まりであった。それ以降ベーが大学に行くまでの3年間、夏は涸沢合宿、冬・春は乗鞍でスキー合宿か五竜遠見尾根合宿（確か2回は行っていると思う）、私が甲南大学に入ってからは一年生の剣沢合宿までずっと一緒の登山であった。今では許される事ではないが、雨で沈殿した時は紅茶にウイスキーを垂らし飲みながら歌い、ウイスキーがなくなると涸沢小屋までフォックスウイスキーのポケット瓶を買いに行かされたものである。

その後、私は横浜国大に転学して甲南山岳部とは一緒に行動しなくなったが、私が三年生、ベーが四年生の時、二人で甲南高校山岳部（石渡先生が顧問、オオゼキがリーダーであった）の剣・槍全山縦走に同行し、雨中を一気に縦走を強行したため高校生から後で顰蹙を買ってしまった。

同じ年の10月、ベーと二人で奥穂小屋に泊まり滝谷の第三尾根に登っている。お互い気楽な気持ちで登っていたが、途中私が濡れた手袋が脱げてずり落ちたのをベーが止めてくれた、その後今度はベーがフラついてルンゼで転びそうになったのを私が止めておたがいおあいこだなと言いあったものであった。

二人とも大学卒業後は一緒に山に登ることはなかった、スキーだけは毎年一緒に出掛けていた。志賀高原のジャイアントコースが出来たばかりの頃、弁当を持ってリフトに乗り一日券で何回乗れるか試そうと乗り続けて宿に帰って足腰が立たなくなってしまった。40歳半ばの頃は、豪華にスキーに行こうと3−4年間はニセコのプリンスホテルに泊まり楽しんだものである。最後にスキーに行ったのは、あまり確かではないが2000年前後、栂池の雪見会か八方だったと思うが、お互いスキーというよりは一杯飲むほうに忙しかったように記憶している。

ベーとの付き合いは、濃淡はあるもの中学に始まり最後は10年ほど前、彼が脳梗塞を患う頃まで続いた訳だが、その後は疎遠になってしまっていた。

彼の訃報を聞いたのは、コッシンからの弔文依頼の時だが、その後雨宮　圭さんから最後の頃の様子を聞いて思いを新たにしている所である。

思い出せば次から次へと色々なシーンが浮かんでくるが、この辺で一旦筆を置き、ベーのご冥福を祈ることとしたい。

目次

追記

たまたまコッシンから電話があり、昭和 25 年 7 月 24 日～8 月 2 日　涸沢合宿の記録があると言う。甲南高校山岳部・甲南山岳会『時報』No.1 (1952) に名前だけ載っている。メンバーは高2: 中井久夫　柳沢正　坂口宏志　前田義定　十河与四郎　、高1: 阿部公義　宮本侑、中3: 田邊潤　米山悦朗　だそうだ。私は最下級生で、初登山行、ガチャは一年上級で既に山の経験はあるがドッペって同級になっていた。(ちなみにこの年、彼はもう一回ドッペって一学年下になり、交友範囲を上下三年に広げた訳である)、覚えているのは、リュウ(柳沢)とコボン(前田)、その他の高2は全く顔を覚えていないし、前述の通り、覚えているパーティーのメンバーはベーとミヤントだけで、後は頭から消えていた。

記録では、二パーティーに分かれて奥穂経由前穂とジャンダルムに行っており、あとは雨で沈殿だったそうで、私の記憶違いがあったようだ。

このメンバーを見ると私以外は既に全員故人となっており、感無量である。

目次

住友健時さんを偲んで

山本恵昭　（昭56理）

ある日、勤め先から帰るバスの車中、いつものようにスマートフォンでFacebookを何気なく見ていると、住友さんが亡くなられたという書き込みが出てきた。ついこの間まで、どこそこの海岸の波に乗って、とか書いてあったのに。あまりに突然のことで、読んでみたものの信じられない。慌てて、甲南山岳会のメンバーに連絡を取ってみると、どうやら事実のようである。

住友さんは1年先輩。思い立ったら即実行と、行動力にあふれていた。でも、メンバーの中では体格が小柄なほうだったので、体力的にはきついことが多かったのではないだろうか。合宿山行などでは、体格の良い同学年の藪内さんを冗談交じりにいじったり愚痴ったり。勝気な性格は、のんびり屋の私とは正反対だった。しかし、住友さんよりさらに体格に恵まれていない私にとっては、二人の会話が面白くて、いつも住友さん側に共感をしていた。

いつの間にか、山から海に。バリ島に住み、サーフィン三昧。長い間、お会いすることがなかったが、Facebook に頻繁に近況を載せられていた。コメントを送るといつも返事が返ってきた。また、私の山行報告にコメントを寄せてくださることもあった。60歳を過ぎてもまだ山に登り続けている私に、同じく歳をとっても好きなサーフィンを続けておられた住友さん。勝手に、歳に抗って好きなことに打ち込む戦友のような気持ちを持っていた。まだまだ、ヨボヨボになっても波に乗る住友さんでいてほしかった。

サーフィン中に亡くなられたと聞いた。最後まで好きなことに没頭された最高の人生だったと思いつつ、あまりにも早すぎる。住友さんの好き放題に付き合ってくださった奥様に感謝をしつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

昭和52年冬　剱北方稜線にて

目次

ー 会員短信ー

2022 秋の集会 出欠連絡に併せて

旧制高校

福井 享　　(旧制 24 理)

ご連絡有難う。残念ながら歳をとり、身体が不自由になりましたので、ご案内に応ずることも出来ません。諸兄姉によろしくお伝えください。

新制高校

北方龍一　　(新高 30)

８６歳です。年齢相応の健康状態です。皆様に宜しくお伝えください。

竹原佑爾　　(新高 33)

ご案内有り難うございます。当方元気で居ります。皆様のご健勝お祈り申し上げます。

福田裕久　　(新高 45)

先日コロナワクチン４回目接種しましたが、なかなか外に出かけるのが億劫な日々を過ごしております。

葉田順治　　(新高 47)

大変申し訳ございませんが欠席させていただきます。

白川浩平　　(新高H2)

職場のレクレーションとして、登山部を発足させ、梅雨入り前に高知の裏山「筆山」(ひっざん) に登りました。その時の模様を Youtube に上げています。(白川浩平税理事務所で検索してください。)

大　学

鈴木頼正　　(大 33 経)

毎日うだるような暑さが続いています。この度　甲南山岳会秋の集会お世話様です。今のところ、年寄りなりに元気ですが、酒の量も減り、食事の量も減り、ゴルフでもして体を動かすように努めています。

伊丹弘忠　　(大 36 経)

高齢になり今年も欠席させていただきます。皆様によろしくお願いします。

牧野　宏　　(大 36 経)

ひと夏を DIY に費やしました。畳に換算すると６畳ほどのベランダ（ウッドデッキ）を造りました。晴天が続いて順調に仕上がり幸いでした。自分では上出来だと思っています。

田中　孜　　(大 36 経)

体調不良のため欠席します。

廣瀬健三　　(大 36 経)

大変元気なのですが山歩きでは、すぐバテバテ、情けないです。(毎月の JAC の山行もどうするか思案中)

越田和男　　(大 36 理)

腰痛との長いつきあいです。当面、外泊可能条件がととのわず、残念ながら欠席です。盛会をお祈りします。

二谷和成　　(大 38 経)

最近新型コロナの影響もあり、出掛けることも減り、急激に体力低下しました。

武田雄三　　(大 39 経)

口ばかりタッシャで体力はガタオチ。楽し

目次

みにしております。

塩路晃二郎　　（大 40 営）
大変長い間お世話になりました。塩路は7月1日に神の元に召されました。癌で1年間の闘病生活でしたが、自宅で安らかな眠りにつきました。生前のご厚情に感謝しつつ御報告まで…。　　塩路泰子

伊丹徳行　　（大 40 法）
病院に行くことが多くなり眼科（緑内障、白内障）、掛り付け医（無呼吸によるC-PAK）、循環器（ステント3個、バルン2カ所血栓）、整形外科（腰痛）、泌尿器科（尿漏れ）、ペインクリニック（肩痛）、内科（糖尿病）、形成外科（検討中）。大変です。晴れますよう！

竹中統一　　（大 40 経）
欠席させていただきます。

安井　正　　（大 40 経）
お陰様で今のところ、コロナに嫌われて元気です。

柏　敏明　　（大 41 経）
何時も色々とお世話頂き有難うございます。コロナ下、時折、早朝ウォーキングや山里の温泉を楽しんでいます。小西さんのヨットで9月1日から10日程、長崎、平戸周辺の島々をクルージングする予定でしたが台風11号の為、秋の集会後に延期しました。久し振りに皆様とお会い出来るのを楽しみにしています。

岸田昌雄　　（大 44 文）
軽い心筋梗塞が再発。禁酒、禁煙、禁サウナ、禁ゴルフを守って生きています。現在満75歳。85歳を目標にしています。

石原浩二　　（大 44 理）
いつもお世話有難うございます。今回諸事情で参加出来ません。盛会を祈っています。

赤田正和　　（大 44 理）
6月に一ヶ月程入院しましたが現在は仕事に復帰しています。体力がなかなか戻らず苦慮しています

南里章二　　（大 45 理）
残念ながら欠席いたします。今年初めに上梓致しました拙著「世界史を歩く」をご購読いただいた会員諸兄に御礼申し上げます。大型書店、アマゾンなどで販売継続中です。引き続き宜しくお願い致します。

矢吹　操　　（大 45 理）
コロナに感染すること無く、元気ですごしております。

井上知三　　（大 48 文）
コロナ禍で3年振りの開催。元気に皆様とお会いできることを楽しみにしております。天候に恵まれ楽しい秋の集会になりますように。僕の泣き言ですが、事務担当を大森さんから引き継いで早いもので20年が経過いたしました。来年あたりは、お役御免をしたいものと思っております。山岳会も100周年・・・・・

平井幹男　　（大 50 文）
秋の集会位までは何かとバタバタしていますが、秋から冬にかけ、やっと好きな旅行や食べ歩きに山あそび、いろいろやってみたい事が出て来ました。集会で皆様とお会い出来る事を楽しみにしております。

早川榮二　　（大 50 経）
体調不良により欠席させていただきます。
（令和4年12月逝去されました　編集）

中澤章治　　（大 50 文）
コロナのために、引き籠もり気味です。御陰で体力が落ち、気力のほうも・・・・。早く回復せねば、このまま齢をとってしまいそうです。

目次

渋谷一正　　（大51 営）

３月末退職いたしました。ここまでたどり着けたのも甲南山岳会の皆様のおかげです。毎日、読書三昧の日々を楽しんでおります。ありがとうございました。７月１６日よりゲテ（西村清君）、山本恵昭君と３名で氷ノ山を楽しみました。１６日は大段が平でキャンプ、夜中の鳥の鳴き声に深山幽谷の響きを、１７日は朝日と雲海になぜか心洗われるように感じました。９時頃、氷ノ山頂上。日頃の行いのせいか濃いガスの中で周りは真白でした。

大柳香代子　　（大51 法）

再び山へ向かい始めて１０数年経ち、装備の買い替えを検討するも、あと何年使うのか…と、ふと、思うのです。

大森雅宏　　（大53 文）

経年劣化とか退行とかを日々実感することが多くなりました。

要　裕晶　　（大55 営）

先約のため、欠席させていただきます。

住友健時　　（大55 法）

いつもお世話かけます。今年も帰国予定がありませんので、欠席させていただきます。元気にしておりますので他事ながらご安心ください。

（令和５年９月逝去されました　編集）

川野幸彦　　（大56 理）

元気で過ごしております。登山ですが大阪周辺の低山を歩いております。来春、定年です。ついに‘サンデー毎日’となります。盛会を祈念しております。皆様によろしくお伝えください。

山本恵昭　　（大56 理）

あと何年山に登れるかなと思うと、行ってみたい所にはとりあえず行ってみようと、頻繁に山へ出掛けています。

西岡　進　　（大57 理）

ご案内いただきありがとうございます。年金生活まであと２年、老人ホームにて７０歳まで働く予定です。

八木　健　　（大58 経）

毎回のご案内有難うございます。今回も体調が良くなく欠席させていただきます。皆様のご健康と集会のご盛会を祈念もうでいあげます。

松山弘和　　（大61 理）

当日の体調にもよりますが参加します。よろしくお願い致します。

（令和５年６月逝去されました　編集）

松成　健　　（大H8 文）

北海道に転勤になりました。いつ異動になるのか分からないので、今のうちに楽しみます。ヒグマ出没情報が多く、登山する気になりませんが、とりあえず、北海道最高峰の旭岳だけは行ってきました。今年の２月は災害レベルの大雪で苦労しましたが、夏は天国です。クーラーは２日しか使用していません。

特別会員

鈴木敬吾　　（特別会員）

秋の集会を楽しみにしていましたが、今年は上高地行きと重なり残念ですが欠席です。盛会を祈ります。

目次

2023 総会・慰霊祭 出欠連絡に併せて

旧制高校

福井 享 （旧制 24 理）
ご案内有難うございます。何分高齢にていずれにも出席できません。諸兄によろしくお伝え下さい。

新制高校

北方龍一 （新高 30）
相変わらずNPO法人PVネット兵庫グローバルサービスのヘッドで自然エネルギー利用SDジーズ、CO2オフセット等にボランティアで参加しています。今年で87才、年令相応に元気です。

竹原佑爾 （新高 33）
元気にしております。皆様に宜しくお伝えください。

福田裕久 （新高 45）
私も本年歳男で齢72才となります。体力・気力共に衰えを感じる今日この頃です。

前田 和也 ・（新高 53）
引越しました 〒001-0045
札幌市：

松下弘幸 （新高 54）
元気にしております。皆様によろしくお伝えください。

白川浩平 （新高 H2）
マンションのベランダでコンポストを始めました。毎日、生ゴミを入れて土をかき混ぜるのが楽しく発効促進のためボカシなど、色々YouTube で研究しています。そのうちに、畑を借りて農業をやってみたいと、日々考えております。

大 学

行友利安 （大 32 経）
父、利安は令和4年10月25日に永眠いたしました。生前のご厚誼を深謝し厚く御礼申し上げます。

鈴木頼正 （大 33 経）
甲南山岳会お世話頂きありがとうございます。3月から一回ゴルフしています。歩くのが遅いので60才以上のコンペに入り足腰を鍛える為に頑張っています。TV で山の番組は必ず見るようにしています。旧制の小川先輩と八ヶ岳で逢い5月の連休を楽しんだ事が思い出されます。

伊丹弘忠 （大 35 経）
幹事さん大変お世話になります。私は元気にしております。皆様によろしく

伊藤久三郎 （大 36 経）
胆のう炎で毎日病院通いしています。

田中 孜 （大 36 経）
体調不良の為 欠席します。

廣瀬健三 （大 36 経）
2015年から(2023年)4月迄毎月一度のJACの山行も終了し少し気が抜けた感じです。週一回のテニスは最高令者と成ってしまいました。元気にやっています。

牧野 宏 （大 36 経）
寒い季節は牡蛎三昧。神戸に居ながら宮城産や広島産どこのもコクがあり美味。調理法は様々だが、結局は素焼きでレモンをギュッが一番、チリワインがどれも美味しく安価で嬉しい。併せて健康の素。大食漢を実行中です。

目次

飯田 進　　（大38経）
出席をしたくても出来なくなってしまいました。ご出席の皆様に宜しく。

二谷和成　　（大38経）
何とか元気にしています。年々歩くのも思うようにならず昨年度末からリハビリ通いです。

福田信三　　（大39理）
昨年12月、能登演劇堂の帰りに氷見海岸より立山連峰が見えました。久し振りの雪山でした。買物と料理・美術館巡り・寺巡りを楽しんでいます。同期生との付き合いも残りました。健康上の理由と話題がさびしい事です。生活と健康の事ばかりです。その点ご婦人方は非常に前向きで楽しいです。夕食会の料理人をやっています。

武田雄三　　（大39経）
お世話役の皆さん御苦労様です。残念乍ら足腰共にガタガタですが口先だけは元気です。

村上与利一　　（大39経）
慰霊祭は当日の体調が良ければ一人でレリーフまで登ります。

井本 洋　　（大40理）
夫は認知症-要介護2です。最近は自分の病気が理解できており、穏やかに過ごせています。

安井 正　　（大40経）
お陰様でなんとか、かんとか生き延びております。

伊丹徳行　　（大40法）
幹事さんご苦労様です。2月に日本で一番寒い町 北海道陸別町に行って来ました。ガイドブックでは-30度Ｃになることもあるとの事で完全装備で行きましたが着く数日前から温度が上がり-2度Ｃ ～-3度Ｃで完全に当てが外れました。来年行ければなと考えています。

柏 敏明　　（大41経）
いつも面倒を見て頂きありがとうございます。半年振りに長崎平戸方面へクルージングに行ってきましたが、天気晴朗なれど波高しで四日間も平戸港に閉じ込められました。お陰でタクシーやバス、生月島や的山大島などを巡り、平戸や平戸周辺に詳しくなりました。

井上 徹　　（大41営）
重度の肺気腫の為、坂道の登りは非常に苦しく、無酸素で高山を歩いているような状況です。先日、四国の金毘羅宮本堂までの785段を登り切り少し自信がつきました。平均年令が77才のゴルフ仲間達と週二日のペースでゴルフを楽しんでいます。

赤田正和　　（大44理）
3/15～16 熊野尾鷲 3/22～23 大分県日田の社有林へ行ってきました。木材が不足気味で伐採しています。体力がついていきません。4/6～7 大分 4/12～13 尾鷲 4/19～21 関東と出張からもどりました。

石原浩二　　（大44理）
総会・慰霊祭の案内届きました。有り難う御座いました。目を離せない状態なので申し訳ないですが欠席します。総会の盛会、慰霊祭の好天を祈ってます。

伊藤辰之　　（大45営）
高齢になり出席が不自由になりました。健康に留意しております。又、元気になれば出席させていただきます。よろしくお願いいたします。

南里章二　　（大45理）
第二土曜日は口座の予定が入っていますので、昨年と同じく到着が3時過ぎになりますが、久しぶりにお元気な皆様のお顔を見たいので、出席させていただきます。

目次

矢吹 操　　（大45理）
後期高令者になりました。元気で働かせていただいております。

井上知三　　（大48文）
2002年、大森さんから事務担当を引き継いで、早いもので20年今年度の総会で現在の世話係は解散、今期でお役目から解放されます。正直なところホッとしています。何かと問題・ご意見等、苦労もありましたがやっと解放。一会員としてサポートしてゆきたいと思っています。

平井幹男　　（大50文）
山には長い事行っていませんが、今年はまだ自動車の運転ができる間に東北や北陸・長野などを回る予定をしています。又、体調を整えて山にも登れる様にがんばります。

高橋けいこ　　（大50文）
いつもお世話になりありがとうございます。同期であり、優しすぎてどこかあほーなこだわりを持ち、本人は真面目なつもりだけれど茶目っ気ある早川君まで旅立ってしまいました。淋しい限りです。去年の慰霊祭には茶屋までしか参加できませんでしたが、今年はそれも叶わず、申し訳ございません。ご盛会をお祈りしております。

中澤章浩　　（大50文）
早川君の訃報に接し驚いています。慰霊登山に臨むべきところ両日所用があり勝手致します。悪しからず御了承下さい。

渋谷一正　　（大51営）
退職して1年になります。2月下旬ゲテ【西村君】と上高地に行きました。あまりの美しさに感動しました。

大柳香代子　　（大51法）
2月に右手首を骨折と脱臼し金属固定手術をしました。リハビリ中でもあり握力がありません。年令的にも回復に時間がかかるでしょう。皆様くれぐれも転倒されませんようにお気をつけて下さい。

松本好博　　（大52法）
元気でやっています。ご盛会を。ベルグハイル。

大森雅宏　　（大53文）
ご案内ありがとうございます。神戸市西区の施設で福祉用具の説明係をして3年目になります。団体見学、若いほうは高校・専門学校・大学生。年配は民生委員などがお相手です。こらあマスクの下でアクビするな、とかつての自分を棚に上げて思います。週4日のアルバイト、もう少し続けることになりそうです。

鳥井陽子　　（大54文）
ご案内ありがとうございます。元気にしております。当日、他の予定と重なり参加できず残念です。

川口 豊　　（大55経）
ご無沙汰しています。久し振りですが参加。よろしくお願いいたします。

住友健時　　（大55法）
いつもお世話かけます。予定がはっきりしませんので欠席します。
（令和5年9月逝去されました　編集）

要 裕晶　　（大55営）
ご案内ありがとうございます。当日、皆様とお会いできることを心待ちにしています。

山本恵昭　　（大56理）
ひざ痛い、腰痛い、肩痛いと体にガタが来ていますが、まだだましだまし山に行っています。

川野幸彦　　（大56理）
ご無沙汰しております。皆様お変わりありませんか。3月末で定年退職となりました。体力をつけて行きたい山に出かけようと考えてい

目次

ます。5月は北アルプスのどこかに上る予定です。これからは毎日がヒマになりそうです。行事がありましたらお声がけください。皆様によろしくお伝えください。

西岡 進　　(大57理)

ご連絡ありがとうございます。土・日は老人ホームで介護職なんです。70才まで現役で働く予定です。

青木雅夫　　(大57経)

いつもご案内ありがとうございます。2020年に急性白血病に罹患し10ヶ月程入院しておりました。その後再発はお陰様でなく生活できております。

八木 健　　(大58経)

毎回のご案内ありがとうございます。慰霊祭へは参加したかったのですが、地域の行事と重なり残念ですが欠席させて戴きます。皆様のご活躍とご盛会を祈念申し上げます。

西名俊英　　(大61理)

ご案内をありがとうございます。昨年より仕事が変わり、日々様々な出来事や経験を積んでおります。

松山弘和　　(大61理)

ご案内ありがとうございます。体調も調子が良くなく申し訳ありませんが欠席させていただきます。体調にもよりますが、秋の集会には参加したいと思います。

(令和5年6月逝去されました　編集)

森本寛之　　(大H19理工)

あっという間にタイ・バンコク2回目の駐在も2年目となりました。日々の業務と子供たち【新5年生・2年生】の世話に大忙しです。

特別会員

鈴木敬吾　　(特別会員)

大事な用が入り欠席します。盛会をお祈りいたします。今の所、特に変わりなく過ごしています。近郊の山歩きは続けています。皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

ご 遺 族

乾 恵美子様

青葉に風薫る頃となりました。皆様と何度かご一緒させて頂きました慰霊祭、さわやかな季節に山を愛する方々と共に物故者の方を偲ぶことができましたこと、そして温かく迎えて頂きましたこと大変嬉しく貴重な体験でした。昨年末、急に体調を崩し、心臓を傷めましたので、好きだった山歩きはあきらめなければならなくなりました。これからは、その頃になるとロックガーデンの方をながめ、思いを馳せ、慰霊したいと思います。今後共、皆様、益々お元気で山行を楽しまれますようお祈りいたしております。

早川信子様

主人が令和4年12月12日に亡くなり今だぽっかり穴が開いている状態です。慰霊祭に参加するか否か、まよいましたが(体力的にご迷惑おかけしないか)主人が喜んでくれるのではと思い参加することにしました。

目次

秋の集会 駒王【令和４年】報告

担当 井上知三

日　　時:　2022年10月8日(土) ～ 9日(日)

場　　所:　木曽文化公園 駒王

参 加 者:　牧野　宏 大36経　二谷和成 大38経　武田雄三 大39経　村上与利一 大39営
安井　正 大40経　伊丹徳行 大40法　柏　敏明 大41経　浪川純吉 大42営
井上知三 大48文　平井幹男 大50文　渋谷一正 大51営　松山弘和 大61理
川村静治 新高S40

掲示板書き込みより　渋谷一正 2022/10/15

秋の集会は10月8日(土)駒王に16時集合し、18時より夕食と久しぶりの再会を喜びました。60周年の山の宴会を第1回として鈴蘭小屋で行ってから35回ぐらいは開催してきた中で13名は一番少人数の参加者数です。60代が1名の他は70代と80代が占めて高年齢者の会です。夕食までは穏やかで今回は会費に残金が出るかと思ったのですが夕食後の酒席では旧交をもっともっと温めるため沢山のお酒を楽しんでしまいました。甲南山岳会会員の年齢を超えた酒豪振りにびっくり致しました。翌日は7時より朝食、8時には駒王前に集合し、甲南山岳会山の歌を木曽の山並みに響けとばかりに歌い、記念撮影の後、来年の再会を約し、解散しました。

目次

2023年度【令和5年】山岳会総会 報告

担当 井上知三

日　時:　2023年5月13日【土曜日】

場　所:　甲南学園 平生記念館

出 席 者:

鈴木頼正 大33年経	牧野　宏 大36年経	二谷和成 大38年経	安井　正 大40年経
柏　敏明 大41年経	浪川純吉 大42年営	赤田正和 大45年理	南里章二 大45年理
井上知三 大48年文	平井幹男 大50年文	渋谷一正 大51年営	大森雅宏 大53年文
川口　豊 大55年経	要　裕晶 大55年営	豆田隆志 大56年法	山本恵昭 大56年理
川村静治 新高S36年			

司会 大森雅宏

1. 会長挨拶　平井幹男
2. 2022年度 事業報告
   1)慰霊祭　平井幹男
   2)木曽福島 集会　渋谷一正
   3)山嶽寮　大森雅宏
   4)大学山岳部の現状 【摂津会】　平井幹男
   5)会計報告　山本恵昭
3. 2023年度 事業報告
   1)慰霊祭　平井幹男
      本年度物故の方々
      故 行友 利安 様 【大S32経】
      故 塩路 晃二郎 様【大S40営】
      故 早川 榮二 様 【大S50経】
      故 中井 久夫 様 【新高27】
   2)秋の集会　渋谷一正
   3)山嶽寮発行　大森雅宏
      慰霊祭は雨天の予報で中止、秋の集会は開催、山嶽寮は発行する
4. 議事並びに報告事項　平井 幹男
   1)山嶽寮の本年の発行について
      例年通り発行・原稿の協力を切望
   2)慰霊祭の今後と名板取付け及び管理について
      昨年12月に銘板についての意向を尋ね、希望分は全て設置した
   3)摂津会の脱会について
      大学山岳部の部員も継続的に不在であり、諸会議の内容が戦績発表・グラウンド調整など当会とはそぐわず、経費の問題からも脱会としたい。

目次

これについて摂津会側より、・加盟を継続願いたい・会費負担は求めない、
との要望がありこれを承諾した

4)山岳会100周年

5)山岳会の今後の行事について

4)5)一括

・本年度で現在の世話役【会長・山嶽寮・会計・事務】は退く

・山岳会の解散は考えない

・山岳会は現在の形にこだわらず事業内容の縮小も考慮する

例えばホームページ・掲示板だけでも残し運営する

・今後、渋谷 一正さんを中心に新たに若手世話役を募り組織を編成

・100周年記念行事については次期世話役に引き継ぐ

記念行事を行う場合、委員会を立上げ90周年と同様に学校で行う

費用についてはその時点の山岳会費を使用する

令和４年度 会計報告

目次

慰　霊　祭

予定日は雨天が予想されたため、慰霊祭は中止となりました。前日に銘板を取り付けましたので、画像でご披露いたします。

5月14日慰霊祭の天候が雨模様だったので、以前に設置のお手伝いを快諾していただいた大森さんと故 松下哲夫さん慰霊祭担当の資料を基に前日の総会の午前中に現場に行き昨年の暮れに承諾をいただいた銘板すべてを設置いたしました。

順番が前後している方もおられますが狭い現場での作業どうかお許しください。

井上 知三

目次

― ホームページから ―

掲示板書き込みダイジェスト　2022.4～2023.3

山遊び海遊び鉄拐山　：山本恵昭　：　4月19日

あまりに天気が良いので、海から山へ。昨夜は満月。朝、塩屋の海は、大潮の満潮。ハマダイコンの花が美しい。ハイキング道を辿って、旗振山。振りかえれば、快晴の空に明石大橋と淡路島。ウバメガシの林の中を、鉄拐山。須磨海岸に浮かぶ船の上を、飛行機が飛んで行く。横尾山の向こうには、六甲山や丹生山。東に少し下り、南面の水平道を西に。そして、一ノ谷へ下る。逆落としとされる場所はかなりの急斜面。義経はこんなところを馬で下ったのかな。住宅地から須磨浦公園。そして、海へ。大潮の干潮。思わず靴を脱いで、磯遊び、アサリ掘り。海岸沿いに塩屋まで戻ると、釣り人の中に、ふと見覚えのある後ろ姿。懐かしい豆田さんだった。

甲南レリーフ　：山本恵昭　：　4月24日

4月24日、朝から雨。でも、来週ではタイミングを逃すので、酒の肴を求めて山へ。今の時期、狙いはコ○○○○。1年に1回は食べたいくせになる香り。ちょっと開き過ぎのものが多いけど、少しは収穫。これがダメなら、同じウコギ科のタ○○○○。そこそこ収穫。コロナの影響で、単独行が多い＝いつでも「や～めた」が出来る＝晴れた日にしか行かない。これでは、体が自然をなめてかかるので、あえて雨の日に。古いゴアテックス雨具は、あまり着ていないのにシームテープが剥がれて、全身びしょ濡れ。やっぱり寒い。あたりまえだけど、雨の岩場はよく滑る。何度もひっくり返り、杖代わりにしていた傘はグンニャリ。靴が古いのか、バランス感覚が落ちているのか。登山口近くで、消防のレスキュー隊。前の方には、レスキューシートにくるまれて背負われている人が。頭には包帯。スリップして、怪我をされたそう。明日は我が身かも。慎重に！　ふと気付くと、腕時計がない。登山道ならまだしも、今回の藪漕ぎコースでは、戻っても見つかる可能性はほとんどゼロ。ガーン！ボケが、静かに忍び寄っているのだ。

６月集会のご案内　：安井　正　：　4月26日

3年振りに「残雪と新緑を愛でる会」をご案内いたします。日時:6月3日(金)～4日(土)場所:新平湯温泉「森井」会費:8，000円(プラスアルコール)定員:10名(部屋数が減っています)掲示板なり安井宛メールにて奮って御申込下さい。　なお、4日の夜は雨宮家のご厚意により松川山荘の使用許可を頂きましたので、スケジュールに余裕のある方は一緒に南アルプスを眺めつつ亡き家主を　偲びませんか。

jacの歩き　：廣瀬健三　：　4月27日

去る四月21日、小雨の中、武田尾駅から竜王山に登り、道場駅まで歩きました。百じょう岩や不動の岩場は見えず。懐かしの道場駅はすっかり様子が変わってました。誰かが""駅の近くの茶店?に綺麗な娘さんが居たとの話をしてました。ぼんやりと思い出す当時の事、同世代の昔話に親近感を覚えました。

剣登山　：大森雅宏　：　5月4日

新コロ騒ぎで出控えゴールデンウィーク、3年ぶりに規制解除。近場に出かけてきました。剣。近場ですから富山ではない。徳島。渋滞を避けるのと高速の夜間割引を考えて朝3時半出発。無風快晴のなか楽々登って来ました。今回は雨さんにいただいた山靴で足ごしらえ。いただきましたのが15年前。心配通りソールが剥げました。はがれもあるかと太い目長い目のタイラップも持参しましたが、予備のスニーカーに履き替えてごまかしました。行動終了近くで大事なし。自分で補修するか張り替えに出すか。考えてみます。ショボいネタですから写真はなし。

北ノ俣岳　：山本恵昭　：　5月10日

GWは、やっぱり山スキー。そして、イワナも釣りたい。釣ったイワナは、焚き火で塩焼き。でも、休めるのは、暦通りの3日間。あんまり奥地には行けない。考え抜いた計画は、飛越トンネルから入山。途中、寺地山から北に降りて、真川源流でキャンプ。長い森を登り、北ノ俣岳へ。標高差約1000mを一気にスキー滑降。イワナ釣り、焚き火三昧。5月3日、雪の多い冬だったが雪解けは急速に進み、飛越トンネルの手前約1kmまで車で入ることができた。神岡新道下部の泥濘には、長靴が最適。でも、スキーセットで荷物が重い。寺地山から北に伸びる尾根は穏やかで、スムーズに真川源流に滑り降りることができた。期待していたスノーブリッジは皆無で、危なっかしい丸太橋を渡る。手頃な雪原にツエルトを張り、焚き火準備とイワナ釣り。チビッコはお戻りいただいて、2尾を塩焼きに。4日、早朝の原生林を、シールとクトーで登る。清々しいが、少し得体のしれない怖さも感じる。これを畏怖というのか、畏敬というのか。スマホGPSを頼りに登り続けると、木々も低くなり、やがて上部の無木立斜面、そして、神岡新道トレースに合流。快晴の北ノ俣岳山頂からは、絶景。北には、堂々と薬師岳。東は、雲ノ平の向こうに赤牛岳から水晶岳。さらに、三俣蓮華岳と黒部五郎岳の間から槍ヶ岳の穂先が見える。
北ノ俣岳西斜面は、スキー天国！先日降った雪が古い雪を覆い、程よく緩んで、抜群のコンディション。ハイスピード大回りが気持ちい～い！下部の森は、総合格闘技。日陰はガリガリ、日向はズボズボ、木々の根元には落とし穴、小さな谷地形、うっかりしていると雪に隠れた枝に引っかかる。そんなこんなも楽しみながら、キャンプサイトに戻る。平らな石を雪の上に置いてベンチを作り、のんびり昼食。日向ぼっこ。上流に下流に、イワナを求めて徘徊。思ったほど大物は出なかった。4尾をキープし、焚き火で塩焼きに。やっぱり旨い！5日、朝の雪の締まった間に寺地山まで登り返し、神岡新道を下る。デポした長靴に履き替えて、ダラダラと飛越トンネルへ。途中であった人が、「クマがいた」と。まあ、この辺のクマは控えめで純な奴だと信じよう。車のところで濡れものを干している間に、水浴び、着替え、ちょっと山菜。欲張り計画を3日間で堪能。あ～面白かった。これだから、なかなか、山はやめられない。

薬師岳

目次

三俣蓮華岳と黒部五郎岳の間に槍ヶ岳

雲ノ平の向こうに、赤牛岳～水晶岳

スキーの写真です

真川源流でのキャンプの写真です。

Re: 北ノ俣岳 ：越田 ：

素晴らしい残雪期の山行ですね。真川源流というターゲットも良く、天候にも恵まれたようで、貴兄の満喫度が伝わってきます。山岳寮に是非紀行文を。ところで、クトーとはどんな道具ですか。

Re: 北ノ俣岳 ：山本恵昭 ： 5月10日

こんな感じのスキーアイゼンです。凍った雪面の登りで有効ですが、踵のクライミングサポートを使うと雪面の刺さる部分が短くなり、あまり効かなくなります。

武田尾まで　：牧野宏　：5月12日

西宮市甲子園から宝塚まで武庫川（西側）沿いの遊歩道　よく整備されていて快適だ。

数年前　甲子園からぶらりと宝塚まで歩いた。もう少し先の武田尾まで歩きたいという思いを残しその日はJRで帰宅した。今年の大型連休中、雨が降らず武庫川の水量は少ない。11日から雨予報。今日10日は快晴　よし歩こう！

7:30　甲子園スタート　→　9:10　甲武橋　→　11:30　宝塚の武庫川西側　→12:10　東側まで渡渉　→　14:30　生瀬　→　16:20　名塩　→19:30　武田尾温泉着

西宮市の遊歩道は宝塚市に入るとぷっつり無くなる。で渡渉が楽しみであった。宝塚市のマンション群の光景に小原耕治(オニ)さんがこの近くに住んでおられて花火の季節にお世話になったことなどを思い出していた。水深おおよそ40～50cm岩の苔に滑り長靴は浸水。まあ全身ずぶ濡れが正しい表現だろう。宝塚で武庫川を渡渉したい　武田尾まで歩きたい　を実行できた。武庫川沿いの美しい渓谷。風も陽射しも優しい。名塩のJR廃線のトンネルなども見て。家族に内緒で行ったので尾行されず良い一日だった。

牧野さん今度もすごい　：大森雅宏　：　5月13日

第3弾ですね。この間の保久良山梅見会の時に伺った計画、今度は武庫川遡行のお話し。1枚目の写真の右端に見えているのが、宝塚大橋と阪急の鉄橋ですね。あそこから上流、次の宝来橋までが花火大会の打ち上げ場所だった記憶があります。子供のころは川の西側がずっと旅館街でしたが今はすっかり様変わり。花火大会の次の日、川原に行ったら打ち上げ花火の外側、ボール紙の半球が落ちていたなんてことも思い出します。福知山線、昭和40年ころまでは蒸気機関車でトンネルに入るまでに窓を慌てて閉めていました。総会でお目にかかります。またお話しをお聞かせください。

Re:　武田尾まで　：越田　：　5月13日

元気なのは何より。そやけど、家族に内緒というのはいけませんな。この歳ですから。昔の武田尾駅

(旧駅)を思い出します。ホームまで猿が出てきたりして。SLだった福知山線は、大森君のいうように、下りは登り勾配で、窓の開け閉めが大変。帰りの上り列車は降り勾配なので窓は開け放しで大丈夫でした。

プレート取り付け　：山本恵昭　：　5月15日

井上さん、御苦労様でした。

レリーフ　：山本恵昭　：　5月15日

昨夜、高座の滝の2つ上のダムでキャンプしました。先ほどレリーフの辺りを確認して、プロペラ岩近くの岩場で寛いでいます。高曇りで暑すぎず、ハイキングには良い天気です。新しい道が次々出来ていて、ややこしいです。

Re: レリーフ　：ゲテ　：　5月16日

山本さんが幕営していたのなら、僕も5月3日に3カ所ほどいいポイントを見つけたので前泊しようか悩んでいました。私の結婚祝いにテントとガソリンコンロをプレゼントしてもらっていたのでそれを引っ張り出して点検済みでした。しかし、前日までの天気予報では大雨の予報だったので断念したので残念です。いつか、高座谷で再チャレンジしようと思っています。

Re: レリーフ　：山本恵昭　：　5月18日

芦屋高座谷も良いですが、摩耶山トゥエンティクロス沿いに、良いキャンプサイトが沢山ありますよ。広々していて、薪もいっぱい。キャンプブームで、市ヶ原は混んでいますが、それ以外のところは空いています。

慰霊祭に参加して　：森本　美子　：　5月18日

甲南山岳会の慰霊祭へいってくるわ～　日頃、自転車に乗っているし大丈夫だろうと、娘と二人、阪急芦屋川駅で浪川さんと待ち合わせをしました。歩きだしたら、こんな岩山を登っていたのと思う程、石、又、大きな石。鶯の声も山ツツジも眼下の景色も目に入らず。一つの石を登るのに、這うようにヨイショ、ヨイショと山本さんに手を引いてもらい、やっと、レリーフの所へ、この石に座ってと言われ、もう、どこへ足をおいても滑り落ちそうでした。レリーフ、

目次

銘板に手を合わせて、やっとホッとしました。國分様の奥様、ご子息様、松下様の奥様、娘様にもご挨拶が出来ました。私が動くのが危ないので、レリーフの前で歌って、写真を撮り、お弁当も済ませて頂きました。そして、色々な方からもお声を掛けて頂きました。帰りは少し楽な道を、それでも私にはえらい事でした。浪川さんに手を引いてもらい、山本さん、川村さんに後ろから押してもらい、這うようにおりました。森本の山靴履いて、川の石をそこともここと言われながら川の中を歩き、無事に自動車道へ出ました。コロナの中でアッという間に主人を見送ってしまい、國分様の奥様、松下様の奥様とこの慰霊祭に参加させていただいたのが、一番の供養ですし、一番の大きな思い出になり、本当に感無量の思いを共有しました。ひとつも夢に出てきませんが、無事に戻りまして、仕事が出来るのを見守っていて呉れるのですね。皆さん、優しく、慰霊祭に参加させて頂き、ホッとしました。関わってくださいました皆々様に心よりお礼申し上げます。有難うございました。　　森本　美子

慰霊祭　：井上知三　：　5月21日

慰霊祭についてコロナの影響で3年ぶりの開催。当日(5/15)日曜日は山歩きには最適な曇り空でした。個人の体力に応じて、集合時間を分けて阪急芦屋川に集合。3つのグループでそれぞれにロックガーデンの慰霊碑に向かいました。12時過ぎには皆がレリーフに集まり、例年通り、黙祷の後、部歌を斉唱、食事、記念撮影終了後、現地で解散いたしました。例年になく多数の下記参加者となりました。ご遺族の方々　森本美子様・森本安紀様・國分眞知子様・國分俊夫様・松下洋子様・押切知恵様【松下さんの長女】牧野宏さん・浪川純吉さん・南里章二さん・平井幹男さん・村田信一さん・西村清さん・渋谷一正さん・大柳香代子さん・西村綾子さん・大森雅宏さん・鳥井陽子さん・要裕晶さん・豆田隆志さん・山本恵昭さん・川村静治さん・井上知三　以上22名

慰霊祭　：松下　洋子　：　5月21日

慰霊祭に参加された方々、筋肉痛は大丈夫だった

目次

でしょうか？私は、日頃の運動不足のツケで、2日間ほど壊れたゼンマイ仕掛けロッボトのような歩き方で、生活しておりました。 2月に平井会長より、慰霊祭への参加のお話があったときには、まだ無理だと考えておりました。4月に慰霊祭の案内ハガキが届き、往復ハガキを毎日眺めながら、行く？行かない？を自問自答。日々の気持ちがコロコロと変化してしまい、行く気持ちが大きくなった日に参加へ丸印をしてポストへ投函、「これで後戻りは出来ないぞ」と自分に言い聞かせることに。慰霊祭に参加した際には、松下の葬儀・告別式に際して事前に香典辞退を、お伝えしていなかったお詫びや、お世話になった方々にお礼を申し上げたかったのですが、40年ぶりに南里様とお会いして、号泣しそうになり、ほとんど何も言えずお別れしてしまいました。まだ、松下の銘板を見るのは辛く、他の方の銘板を見ておりました。井上様が松下の銘板を取り付けていただいた後に、我慢せずに気が済むまで泣いていたなら、松下が亡くなったことを受け入れられていたかも、と思い今日レリーフへ行く予定で出発しましたが、筋肉痛の後遺症でしょうか、登りで何度も躓いて転びそうになり、「下りだったら完全に転げ落ちていたな、危な～」と言うことで、途中で引き返してきました。今までは、松下の背中だけを道しるべとして山登りをしておりましたが、これからは今日のように、自分で判断し行動していか なくては、と改めて考えさせられました。 慰霊祭に参加して、國分様、森本様のご遺族と共に時間を過ごせたことは、心の拠り所となります。慰霊祭を開催していただいた甲南山岳会の方々に感謝致しております。ありがとうございました。

慰霊祭 ：越田和男 ： 5月22日

ご遺族を含め参加各位には、それぞれの物故者への思いを込めたひと時を過ごされたことと拝察いたしております。甲南レリーフへの道は、特にご高齢者にとっては、如何ほどの難路であったことかと、今や老齢となった我が身にひしひしと感じる次第です。参加者名簿に同期の牧野ドングリの名があり、集合写真でも元気に映っているのが嬉しいです。ドングリ83歳が今や参加者の最高齢、続く浪川や、南里も元気そうで何より。平井会長、井上君らの開催主催者諸兄のご尽力に感謝いたします。、

kac レリーフ ：廣瀬健三 ： 5月23日

太平洋戦争で 甲南山岳会員の先輩も亡くなられこれら戦没者への哀悼の意に端を発して1952年:s27年に設置された:当該戦没お亡くなりの方々は次のとうりです。楠木義昭様:1945年インパール北又二郎様:シナ事変 多田潤也様 湯川孝夫様:1945年八月広島 1944年北支藤沢浩様 加藤弘三様レイテ島 村上正一郎様南シナ海 田口六郎様1944年西部ニュウギニア、ヌンホル島。甲南という自由な雰囲気の中で青春を謳歌されたこれらの先輩方は どんなお気持ちで戦場に向かわれたのでしょうか。合掌。

6月集会 ：塩崎將美 6月 4日

久しぶりに集まり楽しみました。上高地一明神をのんびりハイキングしました。

Re: 6月集会　：越田和男　：　6月4日

今朝の上高地は表現は悪いかも知れないが、絵のように綺麗。残雪の穂高、河童橋、梓川の清流。参加出来ずに残念。梅雨入り前のこの季節が正解、来年は何としてでも行きたい。河畔のテーブルで白ワインを飲みたい。ヤッさん宜しく。

雨宮山荘　：塩崎將美　：　6月5日

2日目は松川の雨宮山荘に泊まり亡き先輩を偲びワイワイガヤガヤと楽しみました

6月集会その他　：川村静治　：　6月6日

河童橋から焼岳、明神から徳本峠、大平峠展望台から南木曽岳の写真を追加でのせておきます。

目次

６月集会　：飯田進　：　6月6日

森井で上高地組と別れた後、樽池自然園で水芭蕉を撮りに行ったのですが、ゴンドラ稼働していなかった。11日からだとか、しゃーないから鎌池でお茶を濁してきました。写真は帰りに移した　有明岳。信濃なる　有明岳を西に見て　心細野の路を　行くなり　と西行法師は詠んでいますが、なんで常念岳を詠まなかったのでしょうか。法師は時雨れ降る有明岳を馬手に見て　心細野の　道を行くなり　とも読んでいます。法師も運が悪かった、のですね。

アカンダナ、高ボッチ　：川村静治　：　6月7日

車の中で、何でやと話題になった名前の由来を調べてみました。平湯温泉の上高地行きバスターミナルのあるあかんだな駐車場。背後の山がアカンダナ山2109mといって焼岳と安房峠の間にある火山です。漢字で赤棚と書きます。登山道はなく崩れやすく積雪期でないと登りにくいみたいです。塩尻と岡谷の間にある高ボッチ、由来は諸説あるようで、伝説の巨人『だいだらぼっち』が腰掛けて凹んだとか、アイヌ語でボッチは巨人だとか、塩尻市の図書館が調べた回答へのリンクをご参考までに。

https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000186830

Re: アカンダナ、高ボッチ　：越田和男　：　6月11日

想い出を少々。安房峠からアカンダナとは反対側の安房山2219mに10数年前の残雪期に登ったのを思い出しました。雨さん、トンチさん、二谷、塩崎と一緒でした。キツイ登りでしたが、何とか登頂。下りにアカンダナをトイメンから眺め、その急峻さに、次に登ろうという気が全く無くなりました。高ボッチ高原には、かつて乗鞍や奥飛騨での集会の往き帰りによく立ち寄り遊びました。今は亡き平井センキチや大関の元気だった頃でした。槍や穂高を眺める絶景の山頂に椅子やテーブルを出して豪華なランチを楽しんだり。ダイダラボッチについては、昔の山岳部の部報に森(鷹巣)和則君が印象に残るエッセイを書いていたのを思い出し再読しました。現役の低学年の時に柳田国男の本から得た断片的な知識を背景に、後年に山麓やそこに住む人々との交流で得たあちこちのダイダラボッチについて語っています。 森和則 "ダイダラボッチの住む山々"甲南山岳部『時報』No.12(1974)

鼻曲がり　：山本恵昭　：　6月14日

某山某谷某所で、以前武田さんからいただいた毛鉤で釣り。いかつい顔、いわゆる鼻曲り！厳しい自然の中で生き残ってきた野生の凄味。余りに神々しいので、酒のあてにはせずにリリース。あと何年、生き続けることができるのだろうか。

摩耶山トレーニング　：山本恵昭　：　6月19日

久しぶりに摩耶山トレーニング。涼しいうちにと、早起きして6時から登り始める。朝から濃霧。湿度100%。小さな露粒は、木々の枝葉にまとわりついて、素朴なヤマアジサイの花を輝かせる。そして、蜘蛛の巣を銀河に変えた。6月のキノコは、キクラゲ。ちょっと時期が遅く、半数はドロドロ。綺麗なものを厳選して、夕食に。もう一つの狙いは、シイの根本に生える真っ赤なカンゾウタケ。こちらも時期遅れ。

納涼柏尾谷　：山本恵昭　：　7月3日

7月2日朝から暑くて、摩耶山トレーニングも裏山散歩も行く気がしない。こんな日はやっぱり沢だ。昼頃からバイクに乗って、サクッと丹生山系柏尾谷へ。天津彦根神社の横から下り、橋のある滝からスタート。渇水で迫力不足ではあるが、滝の大きさの割には滝壺が深く、胸まで浸かると暑さを忘れる。次々と現れる小滝は、ほぼ直登できる。途中の川床は広い岩盤で、平な滑状。二股から上は増々水量が減るが、手頃な滝がまだまだ出現。上の二股まで行くと、いよいよ水がなくなって終了とする。谷沿いの踏み跡を下るが、滝はわざとクライムダウンし、最後は滝壺へドボン。キャンプ場跡から下は遊歩道を辿って、天津彦根神社へ戻った。小滝といい滝壺といい、お手頃でなかなか良いのだけれど、渇水で落ち葉や泥が多く、目の周りにまとわりつく虫が多いのも残念。スカッという感じではないけれど、猛暑を凌ぐことができた。

有馬富士　：牧野宏　：　7月19日

1週間に1日、三田行きの用事があります。17日、戻り梅雨の合間、用事のついでに有馬富士（海抜374m）に行きました。しかしあいにく雨に遭いました。頂上直下30分、ロックガーデンのような岩登りがあります。楽しんできました。

毛勝山　：山本恵昭　：　7月26日

毛勝山北西尾根。急で長い尾根でした。予定していた山行が、コロナ感染者増のため2週連続で自粛や中止となった。折角なので、単独でどっかに行こうかと、人にあまり会わない山へ。大学1年生の冬山合宿はここだった。ひたすらテントラッセル。5月に、尊敬する今は亡き先輩カンさんと、毛勝谷から東又谷へと山スキー。想い出深い山である。7月24日、当初は、東又谷を遡行しようと思っていた。しかし、増水した沢を見て、すぐに諦めた。独りで渡渉するのは、ちょっと怖い。北西尾根のピストン

に変更。沢靴やロープ類の分が軽くなる代わりに、水5リットルが荷物に加わる。水場がないと思っていたが、実際には、雪渓が残っていて、水を汲めた。尾根の途中で、何やら変な気配。ふと、木の上を見ると、猿の群れに囲まれていた。ストックを振り上げても大声を出しても、全く意に介さず、ときどきチラ見しながら、寛いでいる。お仲間とでも、思っているのかね。クワガタ池の横に、テントを設営。ガスの切れ間に、のんびり北方稜線と後立山を眺めて過ごす。夕暮れ前、急にガスが晴れたので、慌てて山頂へ。不安定な大気に波打つ雲海と、それに浮かぶ山々。素晴らしい景色。ゆっくり眺めていたいが、暗くなるまでにテントへ戻らないと。25日、夜は星空だったのに、夜明け前に雨がぱらつく。なんとか、雲の下、白馬岳からご来光。黒い雲が立ち込めているが、下山にはカンカン照りより良いかも。今回のお試しは、防虫ネット付き帽子。家で試したときには、目の前のネットが鬱陶しかったけど、外では案外気にならない。何よりメマトイ対策に効果抜群。下山後の立ち寄りは、温泉ではなく、魚津水族館。コンパクトだけれど、深海魚の標本、ブリの餌やり、紅ズワイガニ、カエルやら、アザラシやら、見ごたえがある。手書きの説明が、なかなか面白かった。

馬場島に行ってきました ：大森雅宏 ： 7月31日

2週間ほど前馬場島に行ってきました。1978年にAAVKがゲント峰に出かけたときの同窓会です。私は部外者ですが、20年くらい前から「キミも来るか？」と声掛けいただいています。今年は馬場島。コロナ騒ぎで2年中断3年ぶりです。阪大の石原さん・工大の竹中さん・山本さん、市大の和田さん、近大の小川さんなど、皆さん70オーバーですが元気な面々。70手前は外大の上島さんと私。 その時に麓から見た劔の姿が素敵で、馬場島からの小窓尾根も印象的でした。写真を添付します。さて。この掲示板も明日のお昼まで。私は山嶽寮の掲示板書き込みダイジェストを受け持っていますから、名残惜しく感じています。この掲示板は2代目ですね。最初の書き込みは2007年9月から。3代目の次の掲示板でも活発な情報交換が進みますよう。ホームページを作成された塩崎さん・引き継がれた谷さんに感謝いたします。そうそう、「ホームページ作ろうや」を言い出した雨宮さんにもですね。

以上２代目掲示板より

[11]明石海峡大橋主塔　牧野宏 /07/26

23日(土)大橋主塔に登って来ました。300m(エレベーターで98階)の高さまで上がります。素晴らしい景観とビュンビュン強い風で納涼気分満点でした。又訪れたいです。山の掲示板に海の話で、すみません。

[12]旭岳に行って来ました　Mitsunari Ken /07/27

北海道にいるうちにと思い、旭岳に登って参りました。本来であれば土曜に登山するはずでしたが、雨の為旭川で軽く呑んで、4時半ホテル発。1時間程度でロープウェイ入口着。6時30分にロープウェイ姿見駅に到着。色んなサイトで降水確率10%なのに、降ってました。 8時24分頂上着。頂上も霧雨で全く景色が見えず。何も見えないのでそのまま引き返そうとすると、慣れてそうな方に旭岳はグルッと周らないと価値が無いと言われて間宮岳、中岳温泉経由の周遊コースへ。間宮岳9時33分着。その後ヒグマ注意と地図に書かれていて緊張しながら、霧雨、ガス、曇りの繰り返しの空を見ながらひたすら歩く。途中、高山植物の咲き乱れる箇所が多々あったが、雨でよく分からなかった。晴れていたら旭岳をバックに綺麗だろうなと妄想しながら通過。13 時ロープウェイ姿見駅着。途中、旭川ラーメンを食べて帰宅。

[13]避暑の山旅　山本恵昭 /07/29

7月28日、氷ノ山の大段が平、ナウ。ナウはもう死語か。本当なら、例会(神戸大)で雷鳥沢にベースをおき、龍王岳東尾根等に行くはずが、コロナで中止に。せっかく休みをとったので、避暑を兼ねて大段が平へ。コロッケ、赤エビ、カニカマ、ハタハタと、チープな食材と酒でも、ロケーションが良いと最高にリッチな気分。酒の肴は、モクモク積乱雲、ときどき稲光り。夕陽に照らされて、輝いている。今夜は、星空を眺めながら、ワインをチビチビと。エッ！もう無い。すでに、飲み干してしまった。計算ミス。いつものことだと、諦めよう。明日は、氷ノ山に登るか、はたまた、別の山に行くか、朝の気分しだい。

[14] 避暑の山旅 2日目　山本恵昭 /07/29

避暑の山旅2日目。神戸の熱帯夜が嘘のような涼しい夜。ガスがかかって満天の星空とは言えないけど、周りに灯りがないので、それなりに美しい。そして、清々しい朝。大段が平東端は、御来光ビュ

ーポイント。ずぼらして、テントから。暑くなる前に山頂にでもと6時に出発するが、すでに日射しが暑い。神大ヒュッテの水場で、顔を洗い喉を潤すとリフレッシュ。山頂避難小屋に入り、ドアと窓を開けると、涼しい風が吹き抜けて快適。

一旦、下界に降りて買い出し。昨日はワインだったので、今日は日本酒、香住鶴からくち生酛。ちょっと贅沢をしようかと、道の駅村岡ファームガーデンで但馬牛を…。でも、100 グラム単価を見てアレレ…。やはり、貧乏性。何も買わないわけにもいかないので、一番安いスジ肉を購入。幸い、まだ、歯は丈夫なので、味が出なくなるまで噛み締めよう。舗装された林道を上がり、蘇武岳登山口で、昼食。広い駐車スペースと大きな東屋。氷ノ山から扇の山まで、一望。木陰にテントを張って、のんびり。吹く風が気持ち良い。今夜は、ここに泊まろう。

[15] 無題　　山本恵昭 /07/30

蘇武岳登山口、その後。

午後は、ひたすらダラダラ。そして、小鮎釣りの仕掛け作り。そろそろ、琵琶湖の小鮎、渇水で遅れていた遡上が始まった模様。アウトドア遊びは、いろいろ忙しい。氷ノ山大段が平が朝日の絶景スポットなら、ここ蘇武岳登山口は夕陽の絶景スポット。しだいに暮れてゆく1日を、じっくりと味わうことが出きる。香住鶴、いつもながら、個性ある旨さ。社長さんは、甲南の先輩らしい。四季を通じて、愛用、宣伝しているので、広告料をくれないかな？ディナーは但馬牛スジ肉、スジ肉の筋切り。フライパンで炒めて、塩コショウ。よくテレビの高級肉の食リポで「口の中でとろけるうまさ」とか言っているけど、私は納得出来ない。やっぱり、前歯で噛み切って、奥歯で噛み締める。噛む度に旨味がジュワっと滲み出して来る。それが、肉の醍醐味。野生の本能が、覚醒される。でも、本当に美味しい肉を食べたことが無いだけかも。そうこうするうちに、とうとう日が暮れた。今日も1日が終わり、明日には新しい日が始まる。いつか、新しい日が始まらない日がくるのだろうけど、その日まで笑って楽しく過ごしたいものだ。

[16] 避暑の山旅 おしまい　　山本恵昭 /07/30

避暑の山旅 3日目、最終日。

朝食前に、蘇武岳往復。片道 15 分。氷ノ山は 6 時発でも暑かったので、5 時 20 分発。尾根を辿ると、すぐに芝生の山頂。開けていて気持ち良いが、神鍋側は、ガスが出て、視界無し。登山口がやけに広いと思っていると、パラグライダーの離陸場として使われているようだ。これで、気まぐれ避暑の山旅は、終了。

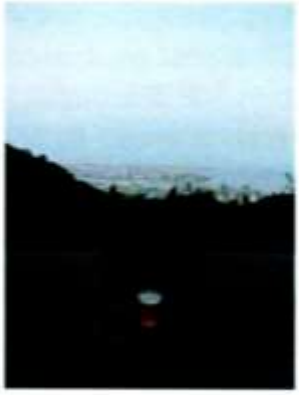
帰りに、いつものスーパーによって、買い物。今日は、カレイの干物が安かったので、購入。恒例の赤エビ、ハタハタも買って、夕食のおかずに。山は涼しかったけど、やはり街中は猛暑でぐったり。家に着くと、この3日間でオクラ、シシトウ、ゴーヤ、空芯菜が大きくなっていた。

[26] 摩耶山 水遊び　　山本恵昭 /08/07

今日は、ノーパン登山。変態ではありません。ちゃんと半ズボンは履いています。速乾性の服を身に纏い、車から歩くこと約40分。目指すは、摩耶山のとある砂防ダム。趣のある古い砂防ダム。そして、その下に緩いナメ滝。以前から目をつけていたが、初めての水遊び。あまりの暑さに、着くなり靴を履き替えて、そのまま、ナメ滝の一番下にドブン。気持ち良い！ナメ滝の途中の手頃な段差に座り、水流に背中を預ける。ほとばしる水滴、快感！体が冷えたら、岩の上で昼食。辛口カレーライスが夏に合う。昼食後は、ダムの滝壺へ。水中メガネとシュノーケルで、ブカブカ。深さは 2m 弱。透明度が高く、端まで綺麗に見える。以前、六甲山系によくアマゴが放流されていた。その子孫達がいないかなと、探したが、見つからず。底には、沢山のヨシノボリがいて、ちょこちょこと動きが可愛らしい。ふと、顔を上げると、水飛沫に虹がかかっていた。着替えを持って来たけど、もうそのまま、靴だけ履き替えて、車へ。十分に冷えた体は、灼熱の車内でも、へっちゃらだ。

[27] 生ビール　　牧野宏 /08/08

5 日(金)夕方 6 時半頃から、布引ハーブ園を目指しました。新神戸 ANA ホテル横の山麓駅から山頂駅までロープウエーで約10分。海抜400mながら、蜩が鳴き秋の気配が漂っていました。雷雨の後だったので、山頂からの街の眺めはしっとり、ハーブ園も森も涼しい。山頂で飲むビールは格別の美味さでした。



[35] 池口沢から池口岳　　山本恵昭 /08/11

南アルプス深南部、池口岳。全国に5箇所指定されている原生自然環境保全地域のうち、唯一本州にある大井川源流部原生自然環境保全地域の境界に位置する。この地域に入るのは、2011 年のリンチョウ沢以来。どうせ行くなら、池口沢を遡って山頂へ。

8月9日、池口集落の下、橋の手前に車を止め、9:20 に出発。しばらくは広河原。ダムを越えて、1030m 分岐までは沢歩き。時々、赤石沢のラジオラリアと同じような赤い岩が見られる。やがて、いくつかのゴルジュが現れ、右に左に、時にはシャワークライムで、次々と滝を超えていく。最狭部は、約2m。記録によると、泳いで奥の滝に取り付くか、右岸を斜上し 10m の懸垂下降か。どちらも面倒臭いと思いながら水中を探っていると、右岸の水中に足場になる岩を発見。いくつか繋いでいくと腹まで浸かる程度で滝に到着し簡単に登れた。1番核心部と思っていたところをスムーズに超えることができたので、気持ちに余裕もうまれ、美しいナメ滝に続く淵に竿を出す。毛鉤を何度か流していると、大きなイワナが水面近くに現れ、スローモーションのように悠然と毛針をくわえた。フィッシュ・オン！30cm 弱か。しばらく、イワナと戯れるが、命を頂くのは1尾だけにしておこう。その後も滝が次々と現れ、最も簡単安全なルートを選び超えていく。

1300m 二股に 15:20 到着。岩小屋沢側に少し登ったところに、広くて平なキャンプサイトを見つけた。テントを張って、早速焚き火でイワナの塩焼き。旨

目次

い！そうこうするうちに、ニョロニョロ君発見。夕方なのに昼。谷底なのに hill。よく見ると、足首から血がタラ～リ。テント場代を血で払う。

10日、早起きして、5時過ぎ発。街では十分お散歩タイムであるが、谷底の森の中では、まだ薄暗い。慎重に二股まで下り、右の湯沢に入る。すぐにゴルジュとなり、次々と滝が現れ飽きることがない。だんだんと倒木が谷を埋めるようになり、最後はガレ場となる。このまま詰め上がると、南峰と北峰のコルに出るようだが、2100m 付近で左岸にシカの踏み跡があったので、それを辿ることにする。西尾根でもう一泊の予定だったので、水を 3 リットルほどザックへ。フェルトシューズからトレッキングシューズに履き替える。シカ道は、絶妙なルート選択で草付きとガレ場を右往左往。安全に南峰の西の尾根に導いてくれた。安全地帯に着いてふと見ると、腕にニョロニョロ君。結構パンパン。シカ道通行料を血で払う。樹林の中を池口岳南峰に 10:20。小雨が降って、濡れた笹でびしょ濡れ。ガスに包まれて、展望は無し。踏み跡をたどり、北峰へ。ここからは、少し道らしくなった踏み跡をひたすら進む。もう一泊するつもりであったザラ薙平に 12:40。時間も早いので、今日のうちにに下山することに。登山口に 16:00。車に 17:00。

久しぶりの 12 時間行動。疲れた。深い森と清き流れ、良い山だったと感慨にふけっていると、3度目のニョロニョロ君登場。最後に、駐車場代を血で払う。

[44] 羽束山　　牧野宏 /08/29

28(日)三田で所要を済ませ、以前から気になっていた三田の羽束山(はっかさん＝524m)に行きました。最寄りの香下寺を16時30分に出発。登山道は整備されていて、すでに秋の気配が漂っています。頂上の入日は18 時30分。炎天の頃よりはるかに日没時間が早くなりました。山道は真っ暗闇、月はありません。スマホの灯りを頼りの下山でした。道中、信仰心の篤いらしい方お一人に出会っただけでした。

出発地点の香下寺へ 20 時着。バスの運行時間はとっくに過ぎていましたが、バス停で見上げると満天の星が美しく輝いていました。街より一足早く爽涼の秋を味わい、快適な小半日でした。

[45] 高知 仁淀川　　山本恵昭 /08/29

仁淀ブルーにどっぷり浸かる。8月最後の週末、また信州の山へと企てていたけど、どうやら天気が怪しい。それならばと、晴れ模様の四国、高知の仁淀川へ行ってみようか。まずは、仁淀川上流域、宮崎の河原キャンプ場へ。ほとんどが石ころゴロゴロの傾斜地であるが、ちょうど帰るグループの使っていた平らなスペースに入れせてもらった。車で、大きな石を避けながら、水辺近くに降りていく。ボンコツだけど、一応4WD なのでスタックせずに進める。テントとタープを設営。椅子に腰掛けると、目の前がすでに仁淀ブルー。ファルトボートを組み立て、まだ誰もいない朝の川に漕ぎ出す。下流に堰があるので、ほとんど止水。透明度が高いので、深みでも底の岩を食むアユが見える。ただ、日が当たると、仁淀ブルーというよりはグリーンかな。漕いだり、風に任せて漂ったり。水に手をつけると、冷たくて気持ち良い。カワセミがダイブして小魚をゲット。

ふと見ると、ボートの後を大きなコイが10尾ほどついて来ている。エサでもやる人がいるのかな。しばらくすると、カヌーやSUPのツアー客で混んできたので、テント前に上陸。車で、もっと上流の安居渓谷へ。有名な水晶淵は、思ったより小さくてがっかり。その少し上流のダム下の溜りが絶品。広くて、深い。そして、透明度抜群。これぞ、仁淀ブルー。さっそく、シュノーケルを付けて、水遊び。透明すぎて、深さ感覚がくるってしまう。冷えた身体を日が当たる岩に横たえると、暖かくて気持ち良い。越知町まで車を走らせ、食材を買い出してテントに戻る。まだまだ、西日が暑いので、テント前でシュノーケリング。少し上流に行くと、アユがいっぱい。四肢を岩に突っ張って流れに耐え、アユ観察。小さなアユは群れているが、大きなアユは、一等地の岩まわりに縄張りを持ち、独占して藻をはんでいる。ちょっとイタズラ。手を伸ばすと、大アユが逃げていく。すると、チビアユたちがぞくぞくとやって来て、一等地の藻をはむ。すると、慌てて大アユが戻ってきて、チビアユを追いかけ回し追っ払う。なるほど、これが友釣りの仕組みか。水辺でバーベキュー。土佐の赤牛、カツオのハラスなどなど。高知産生カツオの刺身、うま〜い！土佐鶴をグビッと！ラッキーなことに、目の前の浅瀬にアユが1尾ヒラヒラ。火ばさみで捕まえた。塩焼きにして食べたが、あまり美味しくなかった。おとり鮎だったのかな。翌日は、仁淀川中流域の偵察とキャンプ場見学。河幅も広くなり、うちのファルトボートでは、厳しそうな瀬もある。鮎釣り師がいっぱい。無料なのに、水場だけでなく、ウォシュレットトイレがあるキャンプ場が結構あって驚き。素晴らしき高知仁淀川。

[56] 初物 マイタケ　　山本恵昭 /09/19

この三連休は、折立から入山して、黒部五郎岳へ。そして、先に新穂高から雲ノ平に入っている娘と合流する予定だった。でも、台風で諦めて、17 日に兵庫県北部のお気に入りのミズナラの森へ。ここ数年、ナラ枯れが進み、立枯れや倒木が目立つ。ふた抱え以上ある巨木が、次々と倒れているのはもの悲しく、恐ろしくもある。ちょっと時期が早いけれど、よく探すと1株だけマイタケを発見。早速、ご近所と実家の母に届け、夕食にマイタケの天婦羅。思い込みかもしれないけど、天然物は香りと歯ごたえが違うのだ。

[71] 甲南山岳会　秋の駒王集会
（10月8日、9 日）　渋谷一正 /10/15

秋の集会は10月8日（土）駒王に16時集合し、18時より夕食と久しぶりの再会を喜びました。
60周年の山の宴会を第1回として鈴蘭小屋で行ってから35回ぐらいは開催してきた中で13名は一番少人数の参加者数です。60代が1名の他は70代と80代が占めて高年齢者の会です。夕食までは穏やかで今回は会費に残金が出るかと思ったのですが夕食後の酒席では旧交をもっともっと温めるため沢山のお酒を楽しんでしまいました。甲南山岳会会員の年齢を超えた酒豪振りにびっくり致しました。翌日は7時より朝食、8時には駒王前に集合し、甲南山岳会山の歌を木曽の山並みに響けとばかりに歌い、記念撮影の後、来年の再会を約し、解散しました。

目次

（写真は会務報告ページにも）

[72] 木曽駒ケ岳　　牧野宏 /10/15

駒王集会のあと伊那から木曽駒ケ岳千畳敷カールの紅葉を楽しんで来ました。皆さんに例会で大変お世話になりありがとうございました。

[74] 空木岳から千畳敷　　山本恵昭 /10/17

好きな山の一つ、空木岳。ロープウェイ利用で千畳敷から空木岳に行こうとして、出遅れて挫折。でも、逆コースで楽しんできました。10月15日7時頃、菅の台バスターミナルに着くとすでに大行列。駐車場の人によると、2時間待ちとか。こりゃダメだ。代案で、昨冬に行った池山尾根経由に切り替える。スキー場の駐車場に車を停めて、8時前発。ラッセルで苦労した尾根は、道もはっきりしていて、順調に歩みを進める。13時半空木平避難小屋に到着。小屋前に小川の水場、外にトイレもあり快適。今夜の宿泊は私も入れて7名。16日ヘッドランプをつけて、5時発。白んでくる東の空に追いかけられながら、空木岳山頂に6時前、ちょうど御来光に間に合った。朝日の向こうに、南アルプスがすべて見える。御嶽山が赤い。池山尾根のピストンにするつもりだったけど、あまりに天気が良いので千畳敷まで行くことにする。

結構、アップダウンがあり、岩場も多い。若い人たちに追い越されながら、なんとか島田娘のピークに辿り着くことができた。宝剣岳を巡る余裕はなく、極楽平からスタコラサッサとロープウェイ乗り場に13 時半。空木岳は、中央アルプスのど真ん中。どこから行っても、なかなかしんどいコース。でも、その山頂部の風化した花崗岩と白い砂は、いつ来ても清々しい。そして景色は絶品。

[80] ナメコシーズン　山本恵昭 /10/31

キノコを求めて、兵庫県北部の森へ。中腹では、ブナの黄葉真っ盛り。倒れて朽ちた巨木にナラタケがどっさり。標高の高い所では、木々はすでに葉を落とし、ナメコシーズンが始まった。霧雨に濡れて、キラキラと輝く。それに、ムキタケやブナシメジが共演。道に束縛されることなく、沢をつめ、藪をこぎ、泥壁を登る。倒木に座って森の静けさに浸っていると、シカがすぐ近くまでやって来る。人としての気配が消えて、自然と一体化しているかのようだ。

[82] 無題 飯田進 /11/03

南里先生　机の引き出しから,カラコルムのゴンドコロピークへ行った時の写真が出てきました。左の

赤旗を付けたのが シャヒーンです。判断しにくいかな。後ろのピークは ライラです。

[84] 飯田進さんへのお返事です

南里章二 /11/03

送っていただいた写真ではよくわかりませんので、私が撮った写真でシャヒーンが映っているものを思い切りズームアップしたものをお送りします。いかがでしょうか。おそらく飯田さんがおっしゃっているシャヒーンだと思いますが。

[85] シャヒーン　　飯田進 /11/04

南里先生へ。

断定はできませんが、面影はあります。多分彼でしょう。彼の兄貴分で、アリモサというのがいます。8000m峰を幾つか登ったと言ってました。彼らはワヒー族らしいですね。もう無理ですが、あの辺行ってみたいですね。

[86] 布引・雄滝茶屋　　牧野宏 /11/13

三宮から至近の布引の滝へ紅葉狩に行きました。残念ながら紅葉には早過ぎました。今日の雨に洗われてきっと美しい色になるでしょう。一軒残っている茶屋の女将さんは頑張っておられます。従妹と友達だそうです。

[88] 岳人誌に伊藤愿さんの滝谷単独行紀行

越田和男 /11/14

直近の『岳人』誌の連載記事「山の文学アンソロジー」に、伊藤愿さんの昭和 2 年の滝谷単独行の紀行文が掲載されています。「高校 2 年生(旧制)の北穂高滝谷単独初登攀滝沢谷滝沢岳登攀(単独行)伊藤愿」『岳人』年 12 月号甲南高校山岳部の「報告」創刊号(1927 年)に発表された記事が、実に 95 年を経て転載されたもので、岳人編集部による的確な解説文と共に今読み返してみて、当時の高校生の大胆な行動力とその文章力に改めて脱帽する次第です。愿さんのこの成果に始まり、当時未知の岩場だった滝谷のいくつかのルートを初登攀し、全容の概念図を作成、その主要な尾根筋に第一、第二、第三、第四と命名して発表したのが、愿さんの後輩の田口兄弟や伊藤新一さんらを中心とした甲南高校山岳部の人たちでした。昭和の一桁時代の早稲田山岳部による積雪期の滝谷登攀のメンバーだった折井健一さんがご存命のころ、甲南の記録と概念図が実に役に立ったと称賛されていたことを思い出します。

なお、今回の引用文は、愿さんの次女松方恭子さんが編集上梓された『伊藤愿の滞欧日録・妻におくった 99 枚の絵葉書』(清水弘文堂書房)を底本とされたとのことです。本号は単独行特集で、服部文祥、夢枕獏、根本誠らの興味あるエッセイもあり、甲南の諸兄には、このような機会にたまには山雑

誌も購読されますようお勧めします。

[89] 花山院の紅葉　　川村静治 /11/19

三田の奥の山上、花山院菩提寺に紅葉狩りに行ってきました。標高は400m程で車で登れます。展望所から有馬冨士(374m)は見おろす感じで見えます。

[91] 扇の山　　山本恵昭 /11/20

久しぶりに大森さんと扇の山へ。畑が平からナメコポイントを辿りながら、山頂を目指す。秘密のポイントのはずが、すでに採られた後。おまけに紙コップやカフェオレの袋などのゴミが散乱。なんか腹立つ。山頂避難小屋2階には先客2名。2階の方が展望が良くてお気に入りだけれど、新コロナも気になるので1階に陣取る。夕食は、なんとか手に入れたナメコとクリタケ、ブナシメジでキノコ鍋。明け方、白んでいく東の空をずっと眺めながら、頭の中を空っぽに。やっぱり寒い。小屋に荷物を置いたまま、3時間ほどブナ林徘徊。地図アプリに6ヶ所ほど、新ポイントを追加出来た。ここ数年、根曲がり竹が少なくなって、藪漕ぎの苦労が減った。シカの食害かな。下山も、道から外れてキノコ探し。落ち葉を踏みしめて、ザクザク感が気持ちいいのです。

[93] 無題　　大森雅宏 /11/26

この前の土曜日、山本大兄と扇の山に行ってきました。書き込みにはキノコ探しのことが出ていますが、アレの参加は山本大兄だけ。私、そんなパワーがないので往復のクルマと出発地点・キノコ鍋地点・帰着地点だけご一緒しました。扇の山の登山道、落ち葉を踏んで葉の落ちた木立の向こうに青空が見えて、なかなかいい風情でした。その前の週に行ってきた大山は、登山道の保護のためかほぼ全行程丸太の階段。登りも下りも膝にこたえるコースでしたが、扇の山はなだらか坂道が多くて膝も悲鳴をあげませんでした。

[96] 宍粟のナメコタワー　　山本恵昭 /12/02

晩秋、宍粟の山に。今年は、まだ雪がない。そして、ナメコタワー！崖のような急な斜面をよじ登り、尾根を越えて反対側の斜面を下る。以前から狙っていた森に着くと、なんとナメコタワーが乱立。1ヶ所見つけると、そのちょっと下にも、ナメコの輝き。また、その下にも。多くはもう古いけど、良いものだけ収穫してもザックが満タン。欲張りジジイのザックは、だんだん重くなる。大収穫に、喜んでばかりは居られない。このナメコタワーは、ナラ枯れ病で立ち枯れしたミズナラの大木たち。この先、この森はどうなるのだろうか。赤西渓谷の林道が、車での通行禁止になったらしい。ゴミ放置などマナーの悪いキャンパーが増えたために、車では入れなくしたとのこと。それなら、空いているだろうと、行ってみた。アウトドアブームで、何処でも同じ状況があるような。車止めからは、誰にも会わない。紅葉終盤、静かな散策を楽しむことが出来た。

[100] 初冬の摩耶山 山本恵昭 /12/11

雪が少なくて、まだナメコに出会えそうな週末。でも、残念ながら野暮用があって遠くへ出かけられない。仕方がないので、時間をやりくりして近場の摩耶山周辺へ。適当に谷を登り、道無き尾根を下る。シイの倒木に、ヒラタケがザクザク！まるで成長過程を表すかのように、チビからビッグサイズ、ボロボロの老菌まで。その横には、アラゲキクラゲも。出遅れシイタケが少々。右往左往していると、アッという間に時間が経って、大慌てで下山した。

[102] 無題 山本恵昭 /12/12

植生、気温、天候をもとにした推理ゲーム、お宝探し。面白くてやめられません。お金をかけずに、おかずや酒のあてが手に入ります。大きな山に行くためのトレーニングにもなります。メンタルヘルスケアにもなっているかも。

[107] 鳳凰山 山本恵昭 /12/27

雪山シーズンがスタート。日本一と No.2 のお山を眺めに、南アルプス鳳凰山へ。クリスマス寒波で信州方面への高速道路はあっちこっちで通行止め。ならばと、新名神、新東名、中部横断道とつないで、南アルプス市まで。

12月25日、夜叉神峠登山口から南御室小屋まで。夜叉神峠では北岳方面の展望が開けるが、そこから先はひたすら樹林帯で単調。クリスマス寒波、恐るべし。ダウンジャケットを着ても夕食を食べても、体が温もらない。寝袋に体をつっこんで熱々紅茶をすすると、やっとひと息。しばらくして、カップを見てビックリ！飲み残しが凍っている。－20℃を下回っているのではないだろうか。てんきとくらすでの 3000m 気温予想は－27℃だったような。

26 日星空。ヘッドランプをつけて、5 時半発。歩いても体は暖まらず、あまりの寒さにダウンジャケットを着込む。山頂で御来光を、と思っていたが、寒さでペースが上がらず、樹林帯の中で日の出。木漏れ日が赤いスポットライトとなり、雪面を点々と照らす。やっと視界が開けた場所に着くと、富士山の横に朝日。北岳バットレスが赤く染まる。う～ん、なかなかの景色。満足！地蔵岳まで行く計画だったけど、薬師岳まででもういいかな。南御室でのんびり撤収して、夜叉神峠に戻った。

下山後、温泉に。山岳博物館のお姉さんのお薦め、旭温泉。なんと、浴室の窓から富士山。関西人には、驚き。薄緑色の弱アルカリ炭酸泉で、肌に炭酸の泡がついて面白い。温めのお湯で、じっくりと楽しむことが出来た。

[115] 琵琶湖周辺で One day two night

山本恵昭 /01/15

今年の登り初めは、比良山系釈迦岳。でも、それより本命は、前夜と後夜。冬の琵琶湖、夜にワカサギが産卵のために波打ち際まで来るらしい。それをタモ網で、バシャリと簡単に掬うことが出来るとのこと。3連休で信州にと考えていたけど、のっぴきならない用事で、フリーなのは 8 日のみ。One day two night、7 日深夜発で琵琶湖へ GO！

夜 1 時過ぎ、西岸和邇浜に到着。長靴を履いて、網を手に暗闇の砂浜へ。ヘッドランプで波打ち際

を照らすが、魚影を全く見つけられない。5 時頃まで、ひたすら砂浜を歩きまわり、収穫は0。意気消沈。どっと疲れが出る。投網の人は、そこそこ獲れている。今日は岸辺に寄っていないとのこと。見かねて 30 尾ほど分けてくださった。キラキラとした魚体が美しい。

8 日、車で 8 時まで爆睡。楽しみにしていた琵琶湖畔からの日の出は、寝過ごして見逃した。

イン谷口を 8:40、大津ワンゲル道を登る。下の方は雪がほとんど無いが、600m 辺りから現れて、上部は膝から腰のラッセル。岩場も出てきて、トラロープ頼り。釈迦岳山頂に 11:20。展望なし。下りは、リフト道。途中、1 ヶ所展望が開け、琵琶湖が輝く。もう閉鎖された比良スキー場の登高リフト管理歩道は、ジグザグと高度を下げ、イン谷口に、13:40 到着。

JR 比良駅前の寂れた食堂で、お婆さんお薦めのおでんを食べて暖まる。味が良くしみて美味しかった。

今朝より北部の浜へ。明るいうちに下見をして、しばらく仮眠。カップ麺で腹ごしらえをして、18:30 いざ出陣。歩けど歩けど、魚を見つけることが出来ない。ああ、また今夜もボウズかと気力が失せかけたとき、波打ち際に肌色の魚が。素早く網を被せ、砂ごと掬いとる。岸辺で網の中の砂を払い除けていると、キラリと輝く魚体。やった～！記念すべき、人生初ワカサギ掬い。1度成功すると、キノコ目ならぬ、ワカサギ目が出来たのか、次々と見つけることが出来る。俄然、やる気も出て、浜を何往復も歩きワカサギ掬い。

急に風が出て波が荒くなる23時までの間に、72 尾ゲットし、とりあえず、満足。仮眠しながら、4 時帰宅。

沢山あったと思ったワカサギは、息子夫婦と孫が遊びに来て、天婦羅にするとあまりの旨さにアッという間に無くなってしまった。

淡々と波音に耳を傾け、ヘッドランプに照された足元だけを見つめて歩き続けていると、雑念が失せていく。また1つ、悪魔の遊びにはまりそうだ。

[120] ワカサギ掬いと堂満岳

山本恵昭 /01/22

琵琶湖ワカサギ掬いと比良山ハイク、その2。今回は、堂満岳へ。

21 日夜、23 時頃から 3 時まで。ワカサギは前回よりいっぱい接岸していて、ひと掬いで5～6尾網に入ることも。家に帰って数えると、320 尾！

22 日、今回は、日の出に間に合う時間に目が覚めた。雲と湖面の隙間から、日が昇る。燃える琵琶湖が、輝く琵琶湖へ変わっていく。8 時半、イン谷口発。金糞峠経由で堂満岳に 11 時。雪は少なく、足首程度。トレースもバッチリで、ラッセル無し。激下りで、ノタノホリ経由、イン谷口に 12 時半。

また、One day two night のつもりだったけど、最初の夜にワカサギが十分獲れたので、下山後帰宅。今夜は、ワカサギ天婦羅。お酒が進む。

[121] ワカサギ　　飯田進 /01/23

山本君のワカサギ、の話で。

小生学生のころ、本籍が滋賀県高島郡今津町今津 64，でした。なんでもご先祖様が石器時代から、琵琶湖の畔に住み着いていたとか。それで子供の

ころ、琵琶湖へはちょくちょく出かけた。名物フナ寿司、鮎のしぐれ煮、ゴリやイサダの佃煮などはよく知ってるが、ワカサギはあまり聞いたことがなかった。小生の浅学の故か、何時ごろからあったのかな。

[122] 無題　　山本恵昭 /01/23

飯田様

ワカサギは元々琵琶湖にはいなかったそうです。明治の中頃から昭和 32 年まで、国や県が何度か放流してみたけど、定着せず。なので、飯田さんが幼き頃には、いなかったのでしょう。でも、何故か平成 8 年頃から獲れだし、今や漁師さんにとって、コアユに次ぐ大事な獲物になっているとのこと。さらに、不思議なのは、他のところに比べてデカイこと。9cm サイズもいますが、14cm のシシャモサイズが混ざります。そんな大きなワカサギは、琵琶湖産以外、見たことがありません。コアユに続き、不思議がいっぱいの琵琶湖の魅力にはまっています。面白いのです。そして、今宵もワカサギ天婦羅。大きなメスのお腹にはプチプチ卵。先週、採ってきたヒラタケとキクラゲも。季節感あふれる肴に、ゴクゴク、グビッと飲み過ぎです。

[123] ヒラタケポイント　　山本恵昭 /01/30

この週末は、持ち帰った事務仕事でつぶれてしまった。日曜日の16時、やっとパソコンから開放されるとじっとしておれず、夕暮れと競争しながら、この冬3度目のヒラタケポイントへ。ここしばらくの大雪で、六甲山系でも雪景色。前回の大収穫から2週間。さすがに、この寒波で成長が止まっていたみたいで、あまり大きくはなっていなかった。雪の積もった倒木に這い上がり、凍りついたヒラタケをもぎ取る。

冷たさで、指先が痺れるように痛い。

[125] 大峯が見えています

川村静治 /02/03

今朝住吉川を散歩していたら金剛山の向こうに珍しく大峯山脈方面が見えていました。写真左の阪神高速の橋塔の後ろが金剛山、その右の高いのが近畿の最高峰八経ヶ岳 1915m から釈迦が岳方面、距離は 90 km程あります。これだけ見えるのは年に数回しかありません。

[131] 3 回目の武庫川　　牧野宏 /03/04

2 月 24 日(土) 3回目の武庫川へ行き上流を目指しました。武田尾駅 8 時、1km 下流の武田尾稲荷神社にお詣りして左岸をつめました。規模のかなり大きな山崩れの痕跡があり難儀しながら11時渡渉しました。

渡った岸辺は高さ10mほどの擁壁が続き、工事用の鋲が打たれています。渡渉の時、全身ずぶぬれになった為、低体温症の症状が出ていましたので、楽そうな道筋を探しました。枝川が本流に流れるトンネルを見つけ、水が枯れていたので幸いでした。トンネルの途中、ヘルメットのライトが消え、スマホの灯りで事無きを得ました。今回からヘルメットを

目次

使うようにしました。3年ばかり前、散歩中に転倒し硬膜下血腫で危ない思いをしましたので。長いトンネルを抜けて砕石運搬道に出ました。休憩、食事なしで雪の舞う道を急ぎ16時道場駅着。三田駅でこの日はじめての温かい食事をしましたが、全身の震えはまだ止まりません。三田駅より神鉄で帰宅しました。風呂につかりやっと震えが収まり人心地がつきました。
武庫川の始点まで行きつく予定でした。

[134] 無題　　越田和男 /03/05

ドングリ超元気やね。文面では独りなのか、屈強な同伴者ありなのか伝わってきませんが、歳を取ると却って危険を察知しなくなる場合もあるかも知れません。くれぐれも気をつけて。武庫川の上流部は昔より水が綺麗になってるのでしょうね。

[135] 無題　　牧野宏 /03/06

越田和男様
ご忠告感謝。妻は子供と羽生結弦の東京ドームへ行きましたので私はお一人旅です。磯たび、ドライスーツが必要だったと反省しきりです。

[143] アヒルさん　　鈴木頼正 /03/25

アヒルさんは元甲南理事長、山岳部の大先輩、九州大学航空学科卒、通称アヒルさんよくガチヤ'田辺潤君)と自宅にお邪魔して山の話を聞かせて頂きました、夜８時過ぎまで山の話をとうとうと聞かせて頂きました。ある年の五月ゴールデンウイークに小淵沢から日本一高い高原列車に乗り八ヶ岳に登り一泊、朝ににはシュラフ足元に雪が積もり、下山し駅の途中の小屋に立ち寄り休憩していると突然山小屋の主が私に自宅に一度家に戻りたいが小屋番をしてくれとのこと、泊り客には小屋代はいただかなくてよいとのこと引き受けた日の昼過ぎ小川先輩が両手をついて小屋泊めて頂けますかと言われ、どうぞと答えると私の顔を見て鈴木やないか！と吃驚されました、アヒルさんよく休みに一人で山をまれました、本当に山が好きでした、、孤独を楽しまれたのか！年！年賀状にも飛行機のスケッチが上手く描かれていました。松下幸之助の自主責任経営の下で経営手腕を磨き、電子レンジ事業部長を務め会社の業績を急成長させられました、元近畿大学工学部教授、松下電器産業客員、PHP総合研究所参与，奈良女子大学講師.著書二 PHP の松下幸之助に学んだ自習責任経営とは！があります。

目次

訃報関連

[59] 訃報　　井上知三 /09/23

事務担当よりお知らせ

秋の集会の返信に塩路様の奥様より下記の記述がありました。

塩路　晃二郎(大40営)

大変長い間お世話になりました。塩路は7月1日に神の元に召されました。癌で1年間の闘病生活でしたが、自宅で安らかな眠りにつきました。生前のご厚情に感謝しつつ御報告まで‥‥。塩路　泰子

[60] 塩路さんのご冥福をお祈りいたします。

柏　敏明 /09/24

掲示板を開いたら、塩路さんが神のみもとに召されたとの奥様からのご報告。一年間も闘病生活をされてのご逝去との事。心からお悔やみ申し上げます。暫く会っていなかった事が悔やまれます。彼とは同じ付属小中学校を卒業し、甲南に来ているとは全然知らず、部室の前でばったり、どうしたんやと聞くと「山岳部に入るんや」との事。山のイメージから遠かった彼の言葉に吃驚しました。同じ小中卒業の伊丹さんも入部されています。小中の同級生3人が何の連絡もなく、全く偶然に甲南山岳部の門をたたいた次第です。彼は背が高く体格は良かったのですが、小生と同じく敏捷性に少し欠ける所があり、山では二人で色々と失敗をしたものでした。小生はポリタンの水と間違って醤油を飲んだり、オリゴ糖と間違って、味の素を大なべの紅茶へぶち込んだり、色々と失敗をしましたが、彼もテントの中で、水と間違って灯油を鍋に入れ、ラジウスに置き、危うく大惨事を起こし掛けた事など、色々とやらかしてくれました。しかし、体力があり、積雪期の氷漬けになったカマボコテントを運ぶのは、彼の担当でした。温厚な性格で彼が怒られたことはあっても、彼が怒ったところは4年間で一度も記憶にありません。その様な性格を買われてか、その当時、出来た女子部の面倒をよく見ていたと思います。

卒業してからは大丸に入社し、海外に出張して商品仕入れを長くやっていたと聞いています。その影響か、世界遺産を巡る事を趣味としていました。初期の頃は数も少なく、全部回りたいと息込んでいましたが、世界遺産が増えた今では果たしてどこまで回れたのか、聞きたかったです。現役時代、御影の彼の家にお伺いした時、お母様をマミーと呼んで、我々が驚かされたのも懐かしい思い出です。

合掌

[103] 訃報 早川栄二君　　村田 信一 /12/13

お知らせします。早川栄二君　S50年経済卒。

昨日12月12日昼過ぎに亡くなられました。11月25日に誤嚥性肺炎で意識が無くなり救急搬送されなんとか頑張って昨日退院されましたが息絶えました。病名は ALS と言われて息を吐く力が弱って回復が難しかったそうです。家族葬12月20日火曜日から通夜、告別式を1日で済ませるそうです。同期の盟友の訃報をお知らせすることは大変寂しい想いです。祈ってあげてください。

[104] 無題　　ゲテ /12/14

衝撃です！！先日も渋谷と早川さんの思い出話をしていました。卒業後も兼松の本社でお会いした事もあり、ハンサムやけどいつまでたっても野暮ったい風貌は変わりませんでした。朝倉さんといい、松下に続いて早川さんが亡くなるなんて･･･自身の終活に拍車をかけなきゃ。

[105] メモリアル　　村田信一 /12/18

蓬莱峡、大阪駅、カナダ合宿 Mt.ロブソン、夫婦で行ったカナダ旅行など

[106] 早川君のこと　　越田和男 /12/26

もうずいぶん昔のことですが、彼が東京勤務になって暫くの間、甲南山岳会の東京での飲み会にはよく顔を出してくれてました。まだ田口二郎さんや西村格也さんなど長老がお元気の頃で、勿論早川君が最若手でした。なかなかのイケメンで溌剌としてましたね。日本山岳会にも入り、本部の海外委員会に名を連ねていたのを思い出しています。また、乗鞍集会の帰途、彼の車に乗っけてもらい、横浜の自宅まで送ってもらったこともありました。まだ中央高速が全通してなかった頃なので、長い道中、彼とどんな会話があったのかさっぱり思い出せませんが、思い出のひとこまです。やがて、彼が海外勤務になったのを機に、音信が途絶えてしまいました。小生より一回り以上も若く、これからの人生を楽しまずに逝ってしまった無念は如何許りかと存じます。ご冥福をお祈り申し上げます。

[124] 訃報・中馬宗武君　　越田和男 /02/01

会員ではないが、大学山岳部に2年在籍していた中馬君が昨年6月に亡くなったとの報せがあったので、旧知の方があると思いお知らせしておきます。甲南には昭和32年から2年間在籍。小生と同期。その間山岳部員。一風変わった人物で、新入部員の自己紹介の時、「甲南の山岳部が春山で遭難死亡事故を起こした事を知ったので入部を決心した」と言ってのけた。北野高校山岳部出身で、岩登りが得意だった。私は劔のチンネに一緒に登ったことがある。『時報』(第5号 1959年)には「山は私の一部であり、私は山の一部である」などと一寸恥ずかしいような題名で、真面目でやや難解な一文を投稿したりしている。哲学書をむき出しに持ち歩き、アルサロ嬢をけむに巻くようなこともしていたようだ。三十年ばかり前に、大阪で(広瀬ポンも一緒だったと記憶するが)昼飯を食ったことあり、その時の話では、竹中工務店で意匠関係の専門職との事だった。何十年も年賀状のやり取りをしていたので、この度奥さんが知らせてくれた次第。ご冥福を祈りつつお知らせまで。

[130] 中馬宗武君　　廣瀬健三 /02/19

亡き福永隆一:デカぶくさん の kac 追悼号 に中馬君は 死の考察の断片 と 夕べの埋葬 という題目 で 一文を書いているが いずれも 哲学的というかやや難解な文もあり 小生とはレベルが違う思いがした。竹中工務店勤務の時、仕事を頼みに行ったが、非常に厳しい対応だった。いい加減なことが嫌いだったのだろう。ご冥福を祈ります。合掌

中井久夫さん関係の書き込み

[32] 中井先生の訃報　　大森雅宏 /08/10

今朝の新聞に中井久夫先生の訃報がありました。小原さんのお口添えで山嶽寮の原稿をお願いに伺ったのが、こないだみたいです。施設に入られた先生をお訪ねして、原稿の手直しを指示された時のてきぱきさが記憶に残って残っています。ご冥福をお祈りいたします。

[33] 無題　　川村 静治 /08/10

神戸新聞の１面と25面の記事を添付いたします。

被災者の心のケア尽力 精神科医

中井久夫さん死去

88歳

中井久夫さん死去

いつも被災者のそばに

PTSDの研究、治療に道

[34] 無題　　越田和男 /08/11

今朝の朝日の天声人語です。

[49] 中井久夫氏追悼文　　越田和男 /09/07

今朝の朝日新聞に斎藤環(たまき)という方からの長文の追悼文が掲載されていました。斎藤氏は精神科医にして文筆家。筑波大学医学部の教授。中井氏の数々の出版物から感銘を受けられたことから、それを実に感銘的な追悼文に書き記されています。

念のため写しを添付しました。ご一読あれ。

義と歓待の精神　理想のケア

思想と実践の両立　常に立場の弱い人々の側に

[50] 叙位徐勲　　牧野宏 /09/08

中井久夫 OB に従四位・瑞宝中綬章を贈ることを６日の閣議で決定と新聞報道です。

[55] 甲南裏山物語　　川村 静治 /09/18

中井久夫集 8(みすず書房)を図書館から借りて読みました。その中に甲南裏山物語という話がありましたのでかいつまんで紹介します。

六甲山の植生について、原始林が明治初期に日常生活や製鉄のために伐採されてハゲ山になり、その後松が植えられた。それも煙害とマツクイムシにやられ照葉樹林に戻りつつある。二楽荘は大谷光瑞の別荘として 1908 年着工、翌年完成したが、本願寺財団の疑獄がらみで管長辞任、1916 年に

目次

久原房之助に売却、1932 年不審火で全焼した。二楽荘とは海の眺めと山の眺めをほしいままにするという意味だそうです。二楽荘の西にはジーメンスの極東総支配人だったヘルマンの屋敷があった。しかし、1914 年ジーメンスと英ヴィッカースから日本海軍への賄賂が英ロイターにより暴露され、山本権兵衛内閣が倒れるという事件がありヘルマンはいち早く帰国してしまった。日本の戦艦金剛建造にまつわる賄賂だった。
いずれも金にまつわるスキャンダルがあった様ですね。二楽荘あとは現在宗教法人の所有となりその東の素戔嗚神社で現役時代、階段のきついトレーニングをした事をおもいだします。

[81] 中井氏追想記事　　川村 靜治 /11/01

10 月 31 日神戸新聞の記事をご覧ください。

12　2022年10月31日

追想メモリアル

精神科医で神戸大名誉教授 中井久夫さん

阪神・淡路 心のケア尽力

[83] 中井さんのこと 川村さんに続いて

大森雅宏 /11/03

中井さんが亡くなられて、折にエッセイ集を開いています。いろいろな分野に広く目を向けられ、きちんと整理して文章にされています。事柄によっては心地よく、事柄によっては心にずしりと響いてきます。ずしりのほうをひとつ。「戦争中の指導層には愕然とするほど願望志向が行き渡っている」(「戦争と平和についての考察」・「樹をみつめて」収載)ほかにも「冷戦の終わりに思う」(「清陰星雨」収載)など今どきの関心事につながる部分があります。その中井さんについて、著作を多く刊行されたみすず書房のネットニュースで目についた事柄を引用して紹介します。

壱岐坂だより―
(みすず書房のスタッフが交代でおたよりしています)
本年 8 月、精神科医の中井久夫先生が逝去されました。数多くの著作を弊社から刊行させていただき、『中井久夫集』(全11 冊)も2019年に完結しました。
(中略)
中井先生との思い出を書かせていただきます。
以前に行われていた、東京国際ブックフェアというイベントでサイン会をしていただいたことがありました。2001 年のことなので20年以上も前になります。当時は書店人に中井先生のファンが多くいて、「中井久夫のサイン会、って驚いたね、みすずは凄いことやってくれるね」と大変喜ばれ、みすず書房の株を上げることができたことは大変有り難いことでした。エッセーが好きだという一般の読者も大勢ご来場いただき、大盛況のサイン会となりました。先生には最後のお一方まで丁寧に接していただき、本当に感謝感激でした。
サイン会が終了した後、てっきり打ち上げに行かれるものと思っていたら、「このあとは娘と食事をする約束をしていましてね。久しぶりなので楽しみにしていたのですよ」と、満面の笑みでおっしゃいました。とても優しい素敵な笑顔が印象的で、多くの読者を魅了する理由が理解できたような気がしました。
中井先生、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。あらためてご冥福をお祈りいたします。(タサキ)
追記　12 月の NHK E テレ「100 分 de 名著」は「中井久夫スペシャル」です。ぜひご覧ください。
(引用終わり)
これを書かれたタサキさんが、中井さんを敬愛され

目次

たことは文の端々に伺えます。同じ思いを持つ身としてご紹介に及んだ次第です。
なお、「追記」にある「12 月の NHK E テレ「100 分 de 名著」は「中井久夫スペシャル」です」について NHK のページから引用します。
「中井久夫スペシャル」(予定) 講師:斎藤環 精神科医、筑波大学教授
私たちにとって「心の病」とは何か？統合失調症の探求、被災者の心のケアなど、人々の苦しみに寄り添った精神科医・中井久夫は、瑞々しい言葉とユニークな視点の論文・エッセイ、医学書から詩に及ぶ翻訳など、多彩な著作を手掛けた文筆家でもあった。『分裂病と人類』他4篇をひもといて、人が社会生活を糸営む意味を考える。
斉藤環さんも中井さんを敬愛するかたのようです。録画して見ようと思います。久しぶりの書き込み、引用ばかりになりました。

[94] 100 分 de 名著　　大森雅宏 /11/26

NHK の 100 分 de 名著、12 月のテキスト。
本日発売。で買ってきました。教育テレビの番組、テキスト買ってまでみたことありませんでしたが、今月は特別。本屋から家までスグなのですが、待ちきれず公園で斜め読みしています。ワタシがぼんやり感じていたことが、解説の斎藤環氏の言葉ではっきり確認できる感じがします。それぞれお好みはありそうですが、番組だけでもご覧になってみません？

[97] 無題　　川村静治 /12/06

放送は見逃してしまったので、NHK プラスで見ました。山岳遭難時の追い詰められた状況と統合失調症の追い詰められた状況の対比、なるほどと思いました。E テレで 12 月 12 日午後 1 時 5 分から再放送があります。

[98] 無題　　山本恵昭 /12/07

月曜日に見ました。テレビで見ているとスッと流れて何となく解った気になるけど、疑問点を反芻出来ない。じっくり考えると何も理解出来ていない。私には、難しいな～と思いました。やっぱり、本をじっくり読まないとダメかな。

[99] 無題　　大森雅宏 /12/11

録画して見ました。ジジイなもので、たいてい夜の10時半は布団の中です。山本さんのご意見みたいにテレビは入りやすいですね。番組見てからテキスト読み返すと、あそういうことでしたか、ということがいくつも。でも、別に一回でスパンとわからなくてもよろしいのでは。時間かけて、一粒で二度オイシイ。一回目は統合失調の話が中心でした。中井さんの医業の功績のメインですからまあ納得。私、若いころレセプト(診療報酬明細書)を扱う仕事をしていました。その頃、当時「精神分裂」と呼ばれた「統合失調症」は被扶養者(扶養家族)の病気でした。働きながら治療する疾病ではなく、親や兄弟の扶養家族になって退院の見込みのない入院を余儀なくされていました。それがここ10年くらいは、被保険者(働く本人)の外来レセプトでも見かける疾病に。40年ほどの間に、働きながら治療できる病気に変わってきたんだなあの感があります。中井さんのお陰が大だと思います。中井さんの臨床研究の成果が一般の診療所の先生方に広まっていったワケでしょう。
明日の2回目も病気のお話。中井ファンの私としては何の話題でもいいんですが、実は4回目 12/26 のエッセイ系の登場が楽しみです。

[108] 大森さん感謝　　牧野宏 /12/30

大森さんありがとう。中井久夫先輩の掲示板で録画して拝見しました。柳澤さんが山岳部で一番の頭脳明晰やと言うと「なにゆうとんねん、同期の中井は俺より 1000 倍の頭してるわ」とりゅうさんの返事、60 年も前部室でのやり取りでした。

[109] 無題　　大森雅宏 /12/30

牧野様

コメント恐れ入ります。中井さんと私の住まいは、たまたまごくご近所です。歩いて行っても30分かそこら。山嶽寮のいろいろも、ほかの方でしたらメールや郵便ですが、持参して確認いただいて次のアクションに。作業がはかどりました。何度もお目にかかってお声や笑顔に接することが出来たのは、編集担当の役得でした。番組の最終回、テーマの一つの「戦争と平和　ある観察」は今から 7 年ほど前の発行です。にもかかわらず、今の世界情勢に当てはまることがいかに多いかを実感します。内容には関係しない枝葉のことをすこし。私の手元にあるのは初版第2刷 2015 年版なのですが、番組で紹介されている書籍の装丁とは違うデザインのものです。どちらも海をテーマにしたモチーフです。番組のは波にヨットのイメージ、テキストに「切り絵」は中井さんご自身によるとありました。手元のものは、波の向こうに半島のイメージ。これも中井さんの手によるものと思います。改訂版の装丁変更にどんな意図をお持ちだったのか、些細なことですが気になります。コメントにありました柳澤さんのこと。中井さんのリュウさんへの追悼文は、故人を懐かしみ逝去を悼むお気持ちが伝わってくる名文であったと思います。身近な甲南を取り上げられた「甲南TODAY」の連載も私の好きな読み物です。（後略）

・

[117] 中井久夫さんが教えてくれたこと

川村静治 /01/21

阪神・淡路大震災 28 年にあたり、神戸新聞に掲題の特集記事が 6 日にわたって掲載されました。ご覧ください。

心のケア まなざし優しく

中井久夫さんが教えてくれたこと

1 プロローグ

中井久夫さんが教えてくれたこと

2 人として

「こころのうぶ毛」を大事に

目次

中井久夫さんが教えてくれたこと

3　地震発生

支援者の存在に意味がある

2023年1月20日

中井久夫さんが教えてくれたこと

5　時代を超えて

心の孤独に寄り添う社会へ

2023年1月19日

中井久夫さんが教えてくれたこと

4　こころのケアセンター

被災者を置き去りにしない

中井久夫教授最終講義記念パーティー

2023年1月21日

中井久夫さんが教えてくれたこと

6　エピローグ

被災地に注いだ優しさと情熱

目次

[118] 無題　　大森雅宏 /01/22

川村さん、掲出ありがとうございます。いま通っているアルバイト先で、金曜日までの神戸新聞は目にしていたのですが土曜のは未読。

冒頭の加賀乙彦さんのこと。亡くなってすぐに記事に入れてこんな事したら構成が変わるんではないか、と思いましたが加賀さんのことは織り込み済みの原稿でした。神戸新聞は 1990 年から 11 年余り中井さんのエッセイを掲載しています。その頃の担当者はすでにほぼご退職と思いますが、今回の記者、中島さんは流れを引き継がれたようです。最終回の「中井さんはきっと、スイッチを押したのだと思う」のことばが心に残ります。

ところで、中井さんは左からの写真を好まれたのでしょうか。連載第2回の執筆風景はほぼ正面ですけど、ほかのはみんな左にカメラ。

初回の笑顔は NHK のテキストにも採用されていました。「鳩杖」も左からではと思って確かめたらやっぱりそうでした。余談のことながら。

[119] 無題　　大森雅宏 /01/22

追伸　写真・左　のこと。執筆風景はほぼ正面と書いてしまいましたが、訂正します。首を巡らせて顔の写真はほぼ正面ですけど、カメラは左に控えています。左にこだわりが。絶対といっていいと思います。ますます余談のことながら。

[136] 中井久夫さんを偲んで

牧野宏 /03/12

ギャラリー島田 B1F　にて催されています

こころを観る　時代を観る

—中井久夫さんを偲んで—

2023 年 3 月 4 日(土)～3 月 29 日(水)　17日(休廊)11:00～18:00(最終日は 16:00 まで)

ギャラリー島田

ご著書や原稿、私信など先生のご活躍のご様子が展示されています

[139] 無題　　大森雅宏 /03/15

牧野さんにお知らせ頂いて、北野に出かけてきました。中井さんワールド。手書きのイラスト、スケッチや原稿に残る推敲など、印刷物や活字とは少し違う温かさがありました。

牧野さんの写真にあったように、甲南の山嶽寮も展示されていましたし執筆部分のコピーも「自由に手に取ってご覧ください」と案内されていました。

目次

私がいた小一時間で6人ほどの来場。どなたも熱心にご覧でした。
手書きの掲示物は「撮影ご遠慮ください」だったので、メモした「神戸グルメマップ」。
題して「震災後版　蒙御免　1998年6月
N千円で料理がまあ、人を連れて行っても、たぶん失笑されないところを選んだ・フンイ気も」
三宮の路地に至る手書きの地図と各店の紹介。
震災後も営業・混んでいないという情報も確認済みの入念さでした。いくつかお示しの店は私も知っているところもあり、知らないところもあり。中で、「羊のカレーは辛い」のコメントのある中東料理の「ぶはら」は当時三宮の朝日会館の近くでしたが、現在は岡本で営業中。今もレジの前には南里さん撮影の青空バックで白亜のイスラム風建物の写真があります。中身が気になる方は、ぜひギャラリー島田へ。ご愛用のメガネ・筆記具・バーバリーのコート・帽子・バッグなどの展示も中井ファンの皆さんには、たまらんやろうなあ、なものでした。

目次

編集後記

今年も無事に山嶽寮78号をお届けすることができました。当初は原稿が集まらず休刊かと心配しましたがホームページで訴えたところ多数の方にご協力頂き発行できました。ご寄稿いただきました皆様有難うございました。なにも出来ない私に代わり編集の実務をやってくれた大森君、会員短信をまとめてくれた井上君、両君には感謝感謝です。おかげさまで7年間休まず発行できました、本当に有難う御座いました。

2016年の総会で編集長を命じられて7年経ちました、毎年総会前に辞めさせてくれと頼んで来ましたが聞いてもらえませんでしたがやっと今年で最後来年の総会で新しい方に引き継ぐとの約束をもらいました。歴代の編集長に比べ短い期間でしたが皆様のご協力で何とか勤めが果たせました有難う御座いました。来年新しい編集長の元どんな山嶽寮が送られてくるのか楽しみです。

山嶽寮　編集長　塩崎将美

山嶽寮　第78号
甲南山岳会
神戸市東灘区岡本8-9-1　甲南大学内
２０２３年(令和5年)１０月
編集人　塩崎将美
印　刷　(株)春日

目次